



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和4年度

事業概要



 **日本赤十字社** 福島県支部
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の救助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

赤十字事業の推進につきましては、平素から社員の皆様をはじめ、多くの県民の皆様からご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

また、令和4年2月から続くウクライナ人道危機や本年2月に発生したトルコ・シリア地震に対し、国際赤十字は、救援物資の提供や医療支援などを続けており、その活動に県民の皆様からもご支援をいただきましたことに改めて御礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、国内での感染確認から3年余りが経過し、本年5月には、5類感染症に移行いたしました。令和4年度におきましても、福島赤十字病院における感染患者の積極的な受け入れや県対策本部への支援業務、予約制の推進等による献血者確保など、その対応に取り組んでまいりました。奉仕団活動や青少年赤十字活動についても感染状況を見極めながら工夫を凝らした活動が行われた中で、青少年赤十字創設100周年記念事業として、北海道・東北各県のJRC高校生メンバーによる交流大会を本県で開催することができました。

また、令和4年8月の会津地方を中心とした大雨災害や、本年5月の石川県能登地方を震源とする地震、その後も線状降水帯等による大雨災害が全国各地で発生するなど、甚大な被害をもたらす自然災害が近年多発しており、こうした災害への対応が重要な課題となっております。そのため、災害救護体制を強化するとともに、防災セミナーを積極的に開催してきたところであり、引き続き、地域防災力の向上に努めてまいります。

こうした支部事業は、県民の皆様からお寄せいただく活動資金（社資）を財源におこなわれております。令和4年度におきましては、長期化するウクライナ人道危機の影響等による厳しい社会経済情勢の中、県内各地区・分区をはじめ、有功会、奉仕団等赤十字関係者のご努力とご支援、そして県民や法人のご協力をいただき、計画していた事業を実施することができました。改めて、関係の皆様から心から感謝を申し上げます。

引き続き、福島赤十字病院では、県民のいのちと健康を守るため、救急医療、地域医療、災害医療の中核として、より質の高い医療の提供に努めてまいります。

福島県赤十字血液センターでは、若年層への積極的な献血推進や医療ニーズに即した献血の推進を図りながら、血液の安定供給に努めてまいります。

今後も、赤十字の「人道・博愛」の精神に基づき、県民福祉の向上に貢献できる各種事業を推進してまいりますので、皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和5年9月

日本赤十字社福島県支部

目次

1 災害救護	1
1 災害救護	1
2 救護員の登録	1
3 救護訓練及び研修	3
4 災害弔慰金の贈呈	4
5 救援物資の配分	4
6 災害義援金（国内）受付状況	5
7 赤十字防災ボランティアの養成	5
8 救護資材	5
2 救護看護師の養成	7
1 奨学金貸与	7
2 日本赤十字秋田看護大学 赤十字特別推薦	7
3 救急法・健康生活支援講習等の普及	8
1 講習会の実施状況	8
2 講習会の開催（合計）	10
3 講習会受講者内訳	10
4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会	10
5 防災セミナー	11
6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力	11
7 県との連携事業「家族で学ぶ防災セミナー」の開催	11
8 会議・研修会	11
9 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数	12
10 救急法等講師	12
4 赤十字奉仕団	13
1 結成状況	13
2 福島県支部委員会	13
3 方部赤十字奉仕団連絡協議会	14
4 赤十字奉仕団指導講師	14
5 会議・研修会	14
6 協力	15
7 赤十字奉仕団研修会（講習会を除く）	15
8 令和4年度赤十字ボランティアのつどい（第11回）	16
9 令和4年度赤十字奉仕団と団員数現況	17

5	青少年赤十字（JRC）の育成	18
1	加盟学校数とメンバー数	18
2	青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数	18
3	青少年赤十字研究推進校の指定	20
4	令和4年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員	20
5	令和4年度 各地区指導者協議会長	21
6	会議・研修会	21
7	県内リーダーシップ・トレーニング・センターの開催	22
8	指導者研修会・講習会等の開催	22
9	福島県青少年赤十字賛助奉仕団	23
10	青少年赤十字防災教育プログラムの普及	23
11	青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集	25
12	青少年赤十字国際交流事業	25
13	青少年赤十字創設100周年事業	26
6	社会福祉活動	27
1	高齢者福祉対策事業	27
2	保健衛生事業	27
3	地域高齢者生活支援活動	27
4	会議・研修会	27
7	国際活動	28
1	第1ブロック支部による国際活動への参加	28
2	救援金受付状況（福島県支部取扱分）	28
3	NHK 海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）	28
4	安否調査	28
8	広報資料	29
1	日赤本社発行物の配布	29
2	支部発行物の作成配布	29
3	ホームページ等の開設	29
4	新聞・テレビ・ラジオ広報	30
9	医療事業	31
1	医療施設	31
2	診療科	31
3	病床数と職員数	31
4	患者数	31
5	紹介患者数	32

6	救急車両による搬入患者数	32
7	医療機器の整備（令和4年度分 主なもの）	32
8	訪問看護ステーションの運営	33
9	各種教室及び相談	33
10	血液事業	34
1	献血状況	34
2	供給状況	34
3	推進会議等の開催	35
4	献血思想の普及啓発・行事	35
5	骨髄ドナーの登録者受入及び登録状況	36
6	日本赤十字社有功章社員等贈与規則に基づく表彰	36
11	評議員会	37
12	業務監理執行及び会計の監査	37
13	赤十字社員増強運動	38
1	赤十字社員増強運動の推進と成果	38
2	表彰	40
3	優良地区・分区の表彰	42
4	地区有功会の結成状況	43
5	日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等	43
6	組織振興課関係会議・研修会等	43
14	会計報告	44
1	令和4年度一般会計歳入歳出決算報告	44
2	令和4年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告	44
15	日本赤十字社福島県支部役員名簿	45
資料編		46
	令和4年度日本赤十字社福島県支部現勢	46
	新型コロナウイルス感染症への日本赤十字社福島県支部のこれまでの対応	48

1

災害救護

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字としての本来の使命に根ざした重要な活動であり、国際的にはジュネーブ諸条約や赤十字国際会議の決議に基づき、国内では日本赤十字社法及び同定款に基づき行われている。

また、災害救助法において国及び都道府県の救助活動に協力する義務が規定され、その具体的内容については「内閣府（防災担当）との協定」により取り決めがなされている。さらに、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられている。

これらを踏まえ、日本赤十字社は救護規則、防災業務計画等を定め、医療救護、救援物資の備蓄及び配分、血液製剤の供給、義援金の受付及び配分、その他応急対応に必要な業務のほか、復旧・復興、防災・減災に関する業務を行っている。

1 災害救護

ア 福島県新型コロナウイルス感染症対策本部への支援

福島県新型コロナウイルス感染症対策本部からの要請により、令和2年度から引き続き職員を派遣し、調整本部（県庁）や保健所、クラスターが発生した医療機関で福島県感染症支援対策チームの一員として支援業務を実施した。なお、人員の派遣については、令和3年3月1日、福島県と「福島県感染対策支援チームの設置に関する協定」を締結した。

支部職員1名 5日間（令和4年5月12日～令和4年7月11日）

病院職員2名 10日間（令和4年4月20日～令和4年7月20日）

2 救護員の登録

災害に備えて救護班8班を常備し、毎年度更新登録している。（令和5年3月31日現在）

ア 救護員の登録

	医師	看護師長	看護師	主事	助産師	薬剤師	災对本部要員	血液供給要員	合計
日本赤十字社福島県支部				4			7		11
福島赤十字病院	37	15	95	65	4	17	17		250
福島県赤十字血液センター			1	2			12	25	40
合計	37	15	96	71	4	17	36	25	301

イ 令和4年度常備救護班編成表

	第1救護班	第2救護班	第3救護班	第4救護班
医師	菅野有紀子	浅間 宏之	阪本 貴之	大須賀文彦
看護師長	武井 明美	武田 里美	安達 明美	成澤 裕美
看護師	三浦 愛	國分 朋子	成尾ありさ	柳田 美穂
	渡邊 義文	斎藤 駿	山口 広夢	三浦 将克
主事	菅野 正幸	池田 久光	菊田 基晴	山名慎一郎
	幕田 高平	佐藤 勝行	藤橋 伸弘	村上 風太

1 災害救護

	第5救護班	第6救護班	第7救護班	第8救護班
医 師	井上 卓哉	佐藤 法義	大原 美希	多田 靖宏
看護師長	菅野いずみ	泉 弘子	鈴木 牧子	奈良輪弘美
看 護 師	清和 彩子	佐藤 裕子	萩原 暁美	本田 裕子
	野坂 雄史	武田 良平	長沢 恵	田島 一樹
主 事	金原 昭世	奈良輪大輔	渡辺 源貴	佐藤 隆昭
	三浦 義喜	明田 充弘	三浦 友輔	小河原貴之

薬剤師	市橋 淳	緑上 淳一	渡部 寿康	川村 早苗	佐藤 南	井上可奈子
	二瓶 瑤子	酒井 亮	菊池 洋平	安齋 英里	古賀 彩織	大竹麻衣子
	小野優紀恵	武藤 芳和	佐藤 綾香	黒田 彩佳	矢葺 優佳	猪股 育美

支部 連絡調整員	石田 政幸	久保 芳宏	松本 琢也	成澤 裕美	出口 智美	大沼 聡美
	野崎 謙司	相澤真理子	徳井 優舞	戸田 真由	中村 麻佑	

こころのケア 指導者	高根 晴美 (病院)	岩崎 睦子 (病院)	菅野 直樹 (病院)	國分 花子 (病院)
	武田 里美 (病院)	成澤 裕美 (支部)	柳田 美穂 (病院)	佐藤 裕子 (病院)
	葛岡 大輔 (病院)			

ウ 日本DMAT登録者

医 師	遠藤 豪一 (統括DMAT)	市川 剛	渡部 研一	中村耕一郎
看 護 師	奈良輪弘美	泉 弘子	原田 瑞穂	渡邊あゆみ
	梅宮 誠	金成 美和	武田 良平	鈴木 直人
業務調整員	渡部 寿康	久保 芳宏	橋本 健一	野田 誠
	野崎 謙司	松本 琢也	酒井 亮	野地 幸次

エ 福島県DMAT登録者

看 護 師	朝倉 恵実	北村 慶
業務調整員	三浦 有樹	山名慎一郎

オ 日赤災害医療コーディネートチーム

	氏 名	任 命 職		氏 名	任 命 職
医 師	遠藤 豪一	災害医療コーディネーター	医 師	渡部 研一	災害医療コーディネーター
医 師	市川 剛	災害医療コーディネーター	医 師	中村耕一郎	災害医療コーディネーター
看 護 師	安達 明美	コーディネートスタッフ	看 護 師	渡邊あゆみ	コーディネートスタッフ
看 護 師	奈良輪弘美	コーディネートスタッフ	看 護 師	鈴木 安英	コーディネートスタッフ
看 護 師	泉 弘子	コーディネートスタッフ	看 護 師	武田 里美	コーディネートスタッフ
薬 剤 師	渡部 寿康	コーディネートスタッフ	事務職員	久保 芳宏	コーディネートスタッフ
事務職員	野田 誠	コーディネートスタッフ	事務職員	野地 幸次	コーディネートスタッフ
事務職員	松本 琢也	コーディネートスタッフ	事務職員	野崎 謙司	コーディネートスタッフ
事務職員	葛岡 大輔	コーディネートスタッフ			

カ 福島県災害医療コーディネーター
久保 芳宏

キ 日赤原子力災害医療アドバイザー
中村耕一郎 海藤 隆紀

ク 原子力災害時医療中核人材研修修了者

医 師	中村耕一郎					
看 護 師	成澤 裕美 柳田 美穂	小林 洋子	岩崎 睦子	鈴木 牧子	黒沢真由美	清和 彩子
診療放射線技師	海藤 隆紀 玉根 勇樹		明田 充弘			
事 務 職	葛岡 大輔					

3 救護訓練及び研修

ア 災害救護訓練

名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
①福島県原子力防災通信連絡訓練	6月22日(水)	福島県支部	支部 1
②日赤福島県支部災害救護訓練	7月9日(土)	福島県支部	病院34 血セ5 支部7
③福島県原子力防災訓練(医療 中継拠点設置運営訓練分科会)	9月27日(火)	Web 開催	支部 1
④日本赤十字社第1ブロック支部 合同災害救護訓練	11月11日(金) 12日(土)	宮城県石巻市	中止
⑤東北ブロック内血液センター 合同災害対応訓練	11月11日(金)	血液センター	血液センター
⑥東北管区広域緊急援助隊合同訓練	11月30日(水)	南相馬市	支部 2
⑦多数傷病者対応訓練	12月1日(木)	富岡町	病院5支部 1
⑧福島県国民保護共同図上訓練	令和5年1月26日(木)	県庁ほか	病院2支部 1
⑨福島 DMAT 衛星電話通信訓練	3月16日(木)		病院 1 支部 1



日赤福島県支部災害救護訓練

イ 研修会・会議

名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
①災害急性期対応研修(都道府県担当者研修)	4月26日(火)	県庁	支部 1 (講師)
②危機対策連絡会	6月9日(木)	仙台市	支部 1
③第1ブロック支部事業推進課長会議	6月16日(木)、17日(金)	福島県支部	支部 3
④防災ボランティアリーダー養成研修会	6月25日(土)、26日(日)	Web 研修	ボランティア 1
⑤日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会	7月23日(土)、24日(日)	福島市	病院 7 支部 5

1 災害救護

名 称	開 催 日	会 場	参加者 (人)
⑥原子力災害医療基礎研修 (福島県から委託を受けて福島赤十字病院が実施)	8月7日(日)	Web 研修	支部2
⑦日赤災害医療コーディネーター研修会 (指導スタッフ研修会)	9月10日(土)、11日(日)	本社	支部1
⑧防災教育指導者養成研修	10月1日(土)、2日(日)	本社	ボランティア1
⑨防災教育指導者養成研修	10月6日(木)、7日(金)	本社	支部1
⑩全国赤十字救護班研修会 (指導スタッフ研修会)	10月22日(土)、23日(日)	本社	支部1
⑪防災教育主任指導者養成研修	11月8日(火)	本社 Web	支部2
⑫こころのケア指導者養成研修会	11月16日(水)、17日(木)	本社	病院1
⑬福島県 DMAT 養成研修	11月19日(土)、20日(日)	県立医大	支部1 (講師)
⑭都道府県災害医療コーディネーター研修	12月4日(日)	東京都	支部1 (講師)
⑮第1回原子力災害医療アドバイザー会議	12月14日(水)、15日(木)	本社	支部2
⑯第1回・第2回東北ブロックDMAT 技能維持研修	12月17日(土)、18日(日)	仙台市	病院5 支部1 (講師)
⑰日赤災害医療コーディネーター研修会	令和5年 1月21日(土)、22日(日)	本社	病院1 支部1 (スタッフ)
⑱宮城県災害医療技能研修会	2月2日(木)、3日(金)	仙台市	支部1 (講師)
⑲全国原子力災害医療連携推進協議会	2月10日(金)	Web	支部1
⑳防災スペシャリスト養成研修	2月10日(金)、3月3日(金)	Web	支部1
㉑防災教育事業推進委員会・技術委員会	2月15日(水)	本社	支部1
㉒都道府県災害医療コーディネーター研修	2月19日(日)	東京都	病院1 支部1 (講師)
㉓令和4年度第1回東北ブロック統括DMAT登録者技能維持・ロジスティクス研修、第3回東北ブロックDMAT 技能維持研修	2月28日(火) 3月1日(水)	仙台市	支部1 支部1 (講師)
㉔日本赤十字社福島県防災支援奉仕団連絡協議会総会	3月5日(日)	支部	ボランティア16 支部1
㉕都道府県災害医療コーディネーター研修	3月5日(日)	本社	支部1 (講師)

4 災害弔慰金の贈呈

火災並びに自然災害等による死亡者の遺族代表者に弔慰金10,000円を贈る。

	件 数	金 額
弔 慰 金	13件	130,000円

5 救援物資の配分

「支部災害救援物資取扱要綱」に基づき、以下のとおり配布した。

		前年度繰越	本社等受入	購 入	戻入等	被害者への配分	他支部への払出	転用等	本年度未残数
支 部	バスタオル	2,103				172			1,931
	毛 布	5,793				144			5,649
	緊急セット	3,400				75			3,325
	安眠セット	502							502
	タオルケット	600							600
本 社									

6 災害義援金（国内）受付状況（ ）内は累計

（令和5年3月31日現在）

義 援 金 名	件 数	金 額
①平成30年7月豪雨災害義援金	0件 (563件)	0円 (62,136,720円)
②令和2年7月豪雨災害義援金	3件 (243件)	20,838円 (13,079,932円)
③令和4年3月福島県沖地震災害義援金	87件 (128件)	3,390,341円 (4,998,875円)
④令和4年7月大雨災害義援金	84件	257,991円
⑤令和4年8月3日からの大雨災害義援金	99件	693,947円
⑥令和4年台風第15号災害義援金	76件	181,569円

※ 災害義援金は、被災都道府県に設置される災害義援金配分委員会を通じて被災者へ全額配分される。

7 赤十字防災ボランティアの養成**ア 福島県支部奉仕団合同災害救護訓練**

防災支援奉仕団と地域奉仕団と共に災害時に活動できるよう「福島県支部奉仕団合同災害救護訓練」を県内持ち回りで令和元年度まで毎年開催していたが、令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

イ 登録者数

防災ボランティアリーダー 8名

防災ボランティア地区リーダー 145名

8 救護資材**ア 県支部保有の主な救護資材**

（令和5年3月31日）

資 材 名	支部	病院	地区区分
移 動 式 炊 飯 器	8組		338組
移動式炊飯器（灯油式）	2組		
医 療 セ ッ ト		2組	
携 帯 用 医 療 セ ッ ト	1個		
携 帯 用 救 護 カ バ ン	2個	3個	
医療資器材携行用カバン	16個		
ノ ー ト 型 パ ソ コ ン	2台	3台	
モ バ イ ル プ リ ン タ ー	3台		
プ ロ ジ ェ ク タ ー	3台		
折 り た た み い す	10台		
診 察 台	2台		
ト リ ア ー ジ シ ー ト	1組	1組	
担 架	24台		73台
ヘ ッ ド ラ ン プ	31台	6台	
災害救援用ハンドビーム	2台		
ラ ン タ ン (15W)	4台	6台	
ランタンスタンド	4台	1台	
投 光 器	3台		20台
移 動 発 電 機	9台		67台

資 材 名	支部	病院	地区区分
蓄 電 池 (大)	2台		
蓄電池(大)専用ソーラーパネル	2台		
蓄 電 池 (小)	3台		
蓄電池(小)専用ソーラーパネル	3台		
モ バ イ ル バ ッ テ リ ー	2台		91台
天 幕 (3 間 × 2 間)	12張		7張
// (1.5間 × 2 間)	4張		242張
エアーテント(4m × 5m)	2張	1張	
// (6m × 6m)	2張		
ワンタッチテント(3m × 6m)	5張		310張
ドラッシュテント(フレームテント)XB	1張		
折 り た た み 寝 台	39台	40台	136台
担 架 ベ ッ ド	2台		
患 者 用 毛 布	50枚	50枚	
自動式ポータブルトイレ	10台		
携 帯 ト イ レ	3個		
ト イ レ 用 テ ン ト	11張		
ス ト ー ブ	4台		
救護所用冷暖房機器	2台		

1 災害救護

資材名	支部	病院	地区区分
救護員作業衣(夏用)	20着	50着	
〃 (冬用)	20着	50着	
ヘルメット	25個	35個	203個
雨具	98着	25着	
防寒衣	16着		
防寒服(上・下)	30着		
救護員用Tシャツ	60着	135着	
ダウンジャケット	25着	20着	
編上靴	52足	36足	
半長靴	9足	11足	
防じんゴーグル	12個	6個	
寝袋	25個		
キャンピングマット	27枚		
携行バッグ	20個	40個	
携行キャリーバッグ	16個	24個	
救護資材倉庫			203棟
ローラーコンベア(電動)	5台		
〃 (手動)	1台		
救急車	1台	2台	
医療派遣用自動車	1台	1台	
災害救護車	8台	1台	109台
普通自動車	1台		
折りたたみ自転車	1台		
4折テーブル	4台		
折りたたみリヤカー	1台		
超短波無線機(157MHz)基地局	1局		
地上移動局(157MHz)	17局	5局	
超短波無線機(415MHz)基地局	1局		
地上移動局(415MHz)	18局	10局	

資材名	支部	病院	地区区分
小電力トランシーバー	12台		
携帯電話・データ端末	8台		
衛星携帯電話(固定)	0台	2台	
〃 (可搬型)	4台	2台	
〃 (車載)	2台	1台	
メガホン(拡声器)	8台		
携帯ラジオ	9台		
液晶テレビ	1台		
電子血圧計	1台		
医療セット置台	3台		
点滴スタンド	5台		
AED一式	4台		
AED(携帯用)一式	6台	1台	112台
災害救護活動用ベスト			245着
DMA T 装備一式		1式	
NBC災害対応除染セット一式	1式		
防護服セット	58組		
デジタル個人線量計	38個	20個	
空間線量率測定用サーベイメータ		1台	
身体汚染スクリーニング用GMサーベイメータ		1台	
救護用ヒップバッグ	5個	15個	
反射チョッキ	40着	20着	
担架置台	5組		
救命胴衣	6着		24着
防災ボランティア雨具	50着		
台車	1台	1台	
アコーディオンスクリーン	2台		
折畳式ホワイトボード	1台		

イ 災害救護装備の充実

災害救護物資の輸送等のため各地区・分区に120万円を上限に赤十字救護車購入の経費の一部を補助した。

◎地区区分災害救護装備

赤十字救護車配置(助成)	5台	①福島市清水分区 ②伊達市伊達分区 ③郡山市地区 ④白河市地区 ⑤広野町分区
--------------	----	---

支部災害対応力の強化のため、主に本社財源により、下記装備を整備した。

◎災害救護装備の整備

蓄電池(大)	2個	災害救護車(更新)	3台(1台は支部財源)
蓄電池(大)専用ソーラーパネル	2個	業務用無線機(更新)車載型	6台
蓄電池(小)	3個	携帯型	7台
蓄電池(小)専用ソーラーパネル	3個	衛星電話(更新)	2台(支部財源)

2

救護看護師の養成

国際的な救護活動、高齢社会への適切な対応ができる優れた看護師を養成するため、赤十字理念を建学の精神としている日本赤十字看護大学等で学び、赤十字に対し深い理解と熱意をもつ学生に奨学金を貸与し、救護看護師を養成している。

1 奨学金貸与

(人)

学校名	1年	2年	3年	4年	計
日本赤十字秋田看護大学	1人	3人	3人	2人	9人
日本赤十字看護大学	—	—	—	—	—
日本赤十字北海道看護大学	1人	—	—	1人	2人
合計	2人	3人	3人	3人	11人

※ 奨学金貸与額：年間60万円（月額5万円）を上限として貸与している。

2 日本赤十字秋田看護大学 赤十字特別推薦

日赤秋田看護大学に入学を希望し、福島赤十字病院に看護師として就職を希望する高校生を対象に選考会を行い、福島県支部長より推薦している。（令和4年度応募者なし）



宣誓式



日本赤十字秋田看護大学

3

救急法・健康生活支援講習等の普及

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、講習をとおして救急法等の普及に取り組んでいる。

当支部においても、「救急法」「水上安全法」「幼児安全法」「健康生活支援講習」の各講習を実施し、事故防止や人命を救う方法、健康で安全に暮らすための知識と技術の普及に努めている。

令和4年度においては、参加者が安心して講習へ参加できるよう、新型コロナウイルス感染症の感染防止策を徹底して講習を開催した。

1 講習会の実施状況

ア 救急法

日常生活における事故防止の知識と、思わぬ事故や急病の人を医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当などの知識と技術を普及している。

心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）の使い方、気道異物除去の方法を学ぶ救急法基礎講習（4時間）を実施した。



講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法	基礎講習 (4時間)	37	657	655	—
	救急員養成講習 (12時間)	16	274	—	273
	短期講習	174	4,890	—	—
	計	227	5,821	655	273

イ 水上安全法

水と親しみ水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、救命手当などの知識と技術を普及している。



講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
水上安全法	救助員養成Ⅰ (14時間)	—	—	—	—
	救助員養成Ⅱ (12時間)	—	—	—	—
	短期講習	38	1,094	—	—
	計	38	1,094	0	0



ウ 幼児安全法

幼児期に起こりやすい事故とその予防、万一事故が起きた場合の心肺蘇生法と AED の使い方、気道異物除去など救命手当及び応急手当の仕方、かかりやすい病気と看病の仕方などの知識と技術を普及している。

短期講習「災害時の乳幼児支援」においては、バンダナ、レジ袋を使用したきずの手当てを行った。



幼児安全法



認知症サポーター養成講座

講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習(12時間)	1	9	—	9
	短期講習	52	669	—	—
	計	53	678	0	9

エ 健康生活支援講習

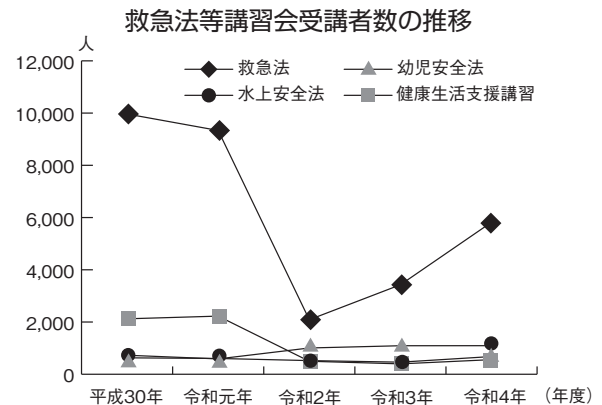
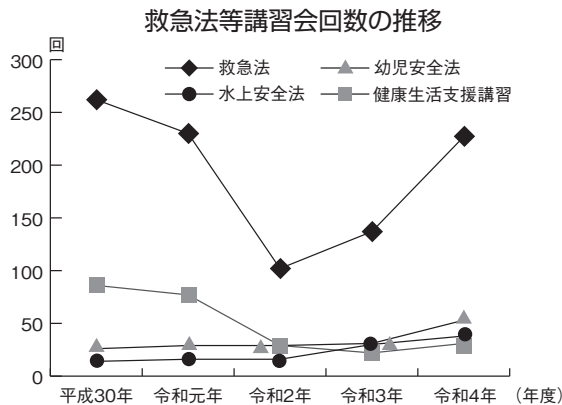
誰もが迎える高齢期を、すこやかに迎えるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術を普及している。

「認知症サポーター養成講座」は、福島市と共同開催し地域のボランティア活動につながる事が期待される。

講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)	
健康生活支援講習	支援員養成講習(12時間)	3	36	—	36	
	短期	災害時高齢者生活支援講習	2	17	—	—
		認知症サポーター養成講座	10	186	—	—
		地域で支える認知症	1	31	—	—
		その他	15	289	—	—
	計	31	559	0	36	

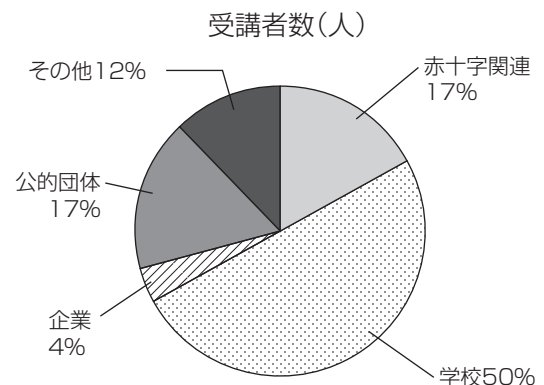
2 講習会の開催（合計）

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法	227	5,821	655	273
水上安全法	38	1,094	0	0
幼児安全法	53	678	—	9
健康生活支援講習	31	559	—	36
計	349	8,152	655	318



3 講習会受講者内訳

	受講者数(人)
赤十字関連	1,369
町内会・自治会	0
学校	4,053
企業	298
公的団体	1,421
その他	1,010
計	8,151



4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会

対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・指導者協議会

内容：心肺蘇生・AEDについて短時間で学ぶ救急法短期講習や水の事故から身を守るための着衣泳等を開催した。

	開催数(回)	受講者(人)
小学校	75	2,083
中学校	21	1,179
高等学校	14	248
特別支援学校	3	139
指導者協議会	6	131
合計	119	3,780



JRC 加盟校を対象とした救急法等講習会



5 防災セミナー

本社における「赤十字防災教育プログラム」の普及推進方針を受け、「防災セミナー」として地域防災に役立つ知識や技術の普及を行った。

防災セミナー開催状況

内 容	回 数(回)	受講数(人)
災害への備え（講演）	17	444
災害エスノグラフィー	0	0
災害図上訓練（DIG）	4	159
避難所運営ゲーム（HUG）	4	100
災害時の応急手当	2	40
非常食作り	23	664
災害時シミュレーション	9	352
その他	7	325
合 計	66	2,084



※ 赤十字防災教育プログラムでの実施は除く。

6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力

12月11日(日)、ビッグパレットふくしまにおいて福島県主催で開催された「そなえる・ふくしま2022」にブースを出展した。

7 県との連携事業「家族で学ぶ防災セミナー」の開催

会 場		開 催 日	参加親子 ※()は総数
福 島 市	飯坂学習センター	10月8日(土)	18組 (41名)
会津若松市	北会津公民館	10月23日(日)	20組 (45名)
相 馬 市	総合福祉センター	11月6日(日)	7組 (15名)
須 賀 川 市	市民スポーツ会館	11月19日(土)	14組 (32名)
合 計		4回	59組 (133名)

8 会議・研修会

研 修 会 名	開 催 日	場 所	参加者(人)
①青森県支部水上安全法指導員研修会	4月29日(金)	青森市	支部1 (講師)
②救急法等指導員研修会 (教本改訂に伴う伝達研修)	4月24日(日) 25日(月) 5月15日(日) 16日(月) 9月10日(土) 14日(水)	福島県支部	救急法等指導員
③第1回赤十字講習推進委員会	5月16日(月) 17日(火)	本社	支部1

3 救急法・健康生活支援講習等の普及

研 修 会 名	開 催 日	場 所	参加者(人)
④健康生活支援講習講師研究会	5月26日(木) 27日(金)	本社	支部1
⑤第1回水上安全法講師研究会	6月6日(月) 7日(火)	さいたま市	支部1
⑥赤十字講習担当者研修会	7月4日(月) 5日(火)	本社	支部1
⑦赤十字講習推進委員会第1ブロック会議	7月5日(火)	本社	支部1
⑧第2回水上安全法講師研究会	9月6日(火) 7日(水)	Web会議	支部1
⑨赤十字講習推進委員会 Web 会議	9月13日(火)	Web会議	支部1
⑩水上安全法講師研修会 (事前打ち合わせ)	10月6日(木) (5日(水))	本社	支部2 (支部1)
⑪健康生活支援講習講師研究会教本改訂打ち合わせ会	10月12日(水) 12月14日(水) 令和5年3月7日(火)	Web会議	支部1
⑫水上安全法講師研究会教本改訂打ち合わせ	11月4日(金) 12月20日(火) 令和5年1月16日(月)	Web会議	支部1
⑬健康生活支援講習講師研修会	1月10日(火) 11日(水)	本社・Web	本社 支部1 Web 病院2
⑭幼児安全法講師研修会	1月11日(水) 12日(木)	本社・Web	本社 支部1 Web 病院2 支部1
⑮救急法講師研修会	1月24日(火) 25日(水)	本社・Web	本社 支部1 Web 支部2
⑯救急法等指導員研修会	2月26日(日) 27日(月) 3月17日(金) 18日(土)	福島県支部	救急法等指導員

9 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数

(令和5年3月31日現在)

講 習 会	ボランティア(人)			職 員(人)			合 計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
救 急 法	48	35	83	12	5	17	61	39	100
水 上 安 全 法	13	2	15	2	0	2	15	2	17
幼 児 安 全 法	18	13	31	6	4	10	24	17	41
健康生活支援講習	2	13	15	0	11	11	2	24	26

10 救急法等講師

各講習会の指導員を養成する指導員養成講習の指導者となる。

(令和5年3月31日現在)

講 習 会	氏 名			
救 急 法	武田 玲子	久保 芳宏	石田 政幸	野崎 謙司
水 上 安 全 法	久保 芳宏	野崎 謙司		
幼 児 安 全 法	武田 玲子	車田 真美		
健康生活支援講習	武田 玲子	車田 真美	岩崎 睦子	

4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、明るく住みよい地域社会を築きあげていくために結成された地域奉仕団、青年や学生の若い力を社会のために役立てようと結成された青年奉仕団、特技を活かして社会に奉仕する特殊奉仕団が、共通の理念にたってそれぞれの持ち味を活かした奉仕活動を実践している。

長引くコロナ禍によりボランティア活動が大幅に制限されたが、感染防止対策を徹底しそれぞれ地域のニーズに応じた様々な社会福祉活動を行った。また、災害時には住民の立場になり奉仕活動を行うため、日頃から訓練を行って災害に備えている。



献血キャンペーンの協力（喜多方市赤十字奉仕団）



水原小学校での防災教室（飯野町赤十字奉仕団）

1 結成状況

（令和5年3月31日現在）

奉仕団種別	団 数	構 成		
		男(人)	女(人)	計(人)
地域赤十字奉仕団	106	993	7,558	8,551
青年赤十字奉仕団	4	68	123	191
特殊赤十字奉仕団	34	986	219	1,205
計	144	2,047	7,900	9,947

2 福島県支部委員会

赤十字奉仕団福島県支部委員会は、方部赤十字奉仕団連絡協議会会長と特殊奉仕団から県賛助奉仕団委員長、県防災支援連絡協議会会長で構成し、福島県支部管内の各奉仕団の活動に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

福島県支部委員会役員

役 員	氏 名	所 属
委 員 長	佐原和佳子	喜多方市赤十字奉仕団委員長
副委員長	林 美枝子	須賀川市赤十字奉仕団委員長
副委員長	松田 貞夫	福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長

3 方部赤十字奉仕団連絡協議会

方部名	令和4年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和4年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和4年度 方部会長奉仕団名
福島	飯坂町赤十字奉仕団	須賀川・岩瀬	須賀川市赤十字奉仕団	両沼	会津美里町高田赤十字奉仕団
伊達	保原町赤十字奉仕団	白河市	白河赤十字奉仕団	南会津	田島赤十字奉仕団
安達	本宮市白沢赤十字奉仕団	西白河	西郷村赤十字奉仕団	いわき	内郷方部赤十字奉仕団
郡山	郡山市赤十字奉仕団	東白川	鮫川村赤十字奉仕団	相馬	原町赤十字奉仕団 (暫定)
田村	三春町赤十字奉仕団	会津若松	会津若松市赤十字奉仕団	双葉	休止
田村市	大越町赤十字奉仕団	北会津	河東赤十字奉仕団	県賛助奉仕団	福島県委員長
石川	古殿町赤十字奉仕団	喜多方・耶麻	喜多方市赤十字奉仕団	県防災支援連協	郡山アマ無線赤十字奉仕団

4 赤十字奉仕団指導講師 (9名)

(令和4年4月1日現在)

福島市	藤田 伸朔	郡山市	安田 悠子
福島市	松田 貞夫	会津若松市	栗城 美保
福島市	土屋 悦男	いわき市	飯間香保子
福島市	佐藤 敦子	相馬市	高橋 誠
アドバイザー (1名)		郡山市	今泉 春雄

5 会議・研修会

名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
①令和4年度青年赤十字奉仕団全国協議会	4月23日(土)~24日(日)	WEB 会議	青奉2
②令和3年度全国青少年赤十字賛助奉仕団 連絡協議会第2回役員会	5月20日(金)	WEB 会議	全国会長1 支部1
③奉仕団中央委員会	5月30日(月)~31日(火)	本社	県委員長 (WEB 会議)
④奉仕団委員長会議	6月21日(火)~22日(水)	郡山市	奉仕団員87 指導講師8 支部6
⑤奉仕団支部指導講師会議	6月21日(火)	郡山市	指導講師8 支部3
⑥令和4年度青少年赤十字全国指導者協議 会総会・研修会	6月29日(水)	WEB 会議	全国会長 (オブザーバー)
⑦奉仕団担当者研修	7月6日(水)	WEB 会議	支部1
⑧全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	7月13日(水)~15日(金)	本社	全国会長1 賛助奉仕団委員長1
⑨第1ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	8月20日(土)	WEB 会議	青奉1
⑩令和4年度第2回青年赤十字奉仕団全国協議会	9月11日(日)	WEB 会議	青奉1
⑪第1ブロック賛助奉仕団協議会	10月20日(木)	WEB 会議	県賛助2 支部1
⑫赤十字奉仕団中央委員会常任委員会	12月2日(金)	本社	県委員長1
⑬令和4年度赤十字奉仕団支部指導講師研修会	令和5年1月28日(土)~30日(月)	本社	指導講師1
⑭令和4年度赤十字ボランティア・リーダー研修会	1月28日(土)~30日(月)	本社	指導講師1
⑮奉仕団方部連絡協議会会長会	1月~3月	文書審議	
⑯支部奉仕団リーダー養成研修	2月21日(火)~22日(水)	福島県支部	奉仕団員14
⑰第1ブロック青年赤十字奉仕団統一キャンペーン	3月4日(土)	WEB 会議	奉仕団員2
⑱令和4年度全国青少年赤十字賛助奉仕団 連絡協議会第2回役員会	3月13日(月)~14日(火)	本社	県賛助1 (全国顧問)
⑲赤十字奉仕団指導講師会議	3月13日(月)	福島県支部	指導講師7 支部5

6 協 力

赤十字新聞発送作業協力（県北賛助奉仕団、日赤福島ボランティア会）

毎月2日間 延べ24日 348人

7 赤十字奉仕団研修会（講習会を除く）

赤十字奉仕団指導講師等の協力を得て、赤十字奉仕団の研修会を開催している。

赤十字奉仕団名	内 容	講師派遣人数（人）
須賀川市赤十字奉仕団	基礎研修 1	指導講師 1
東白川方部赤十字奉仕団連絡協議会	防災セミナー：災害への備え	支部職員 1
富岡町赤十字奉仕団	基礎研修 3	支部職員 1
川内村赤十字奉仕団	防災セミナー：炊き出し 2	支部職員 1
日和田町赤十字奉仕団	基礎研修 3	指導講師 1
葛尾村赤十字奉仕団	基礎研修 3 防災教育 2：きけんはっけん	支部職員 1
北会津防災支援赤十字奉仕団ほか	基礎研修 1～3 防災セミナー：炊き出し 1	支部職員 1
石川町赤十字奉仕団	基礎研修 3	指導講師 1
会津若松市赤十字奉仕団	基礎研修 1・3	指導講師 1
福島県あん摩・マッサージ・はり・きゅう赤十字奉仕団	基礎研修 1～3 リーダー研修	指導講師 1 県賛助奉仕団 1
小名浜方部赤十字奉仕団	基礎研修 3	指導講師 1
浅川町赤十字奉仕団	基礎研修 3	指導講師 1
富久山町赤十字奉仕団	基礎研修 3	指導講師 1
須賀川市赤十字奉仕団	防災教育：きけんはっけん	指導講師 1
安達方部赤十字奉仕団連絡協議会	基礎研修 3	指導講師 1
小高赤十字奉仕団	基礎研修 3	指導講師
会津美里町高田赤十字奉仕団	防災セミナー：炊き出し 1	支部職員 1
本宮市本宮赤十字奉仕団	基礎研修 3 (+健康生活支援講習)	支部職員 1 (指導員 1)
郡山市赤十字奉仕団	防災セミナー：炊き出し 2	指導講師 1
矢吹アマチュア無線赤十字奉仕団・矢吹・三神・中畑赤十字奉仕団	基礎研修 1～3 防災セミナー：炊き出し 1	指導講師 2
福島県あん摩・マッサージ・はり・きゅう赤十字奉仕団	防災セミナー：炊き出し 1・2 防災教育：防災すごろく、きけんはっけん、 自分だったらどうする	指導講師 1 支部職員 1
伊達赤十字奉仕団	防災セミナー：災害時の救急法	指導員 1
船引町赤十字奉仕団	防災セミナー：防災ボランティアのための このころのケア	支部職員 1
滝根町赤十字奉仕団	基礎研修 1 防災セミナー：災害時の救急法	指導講師 1
四倉方部赤十字奉仕団	基礎研修 3	支部職員 1
福島アマチュア無線赤十字奉仕団ほか	基礎研修 1～3 防災セミナー：炊き出し 1	支部職員 1

4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団名	内 容	講師派遣人数(人)
福島県あん摩・マッサージ・はり・きゅう赤十字奉仕団	防災セミナー：災害時シミュレーション、災害への備え、防災ボランティアのためのこころのケア炊き出し1・2	指導講師 1 支部職員 1
会津若松市赤十字奉仕団（大戸分団）	基礎研修 1	指導講師 1
勿来赤十字奉仕団	基礎研修 1・3	指導講師 1
三島町赤十字奉仕団	防災セミナー：炊き出し 1	支部職員 1
小高赤十字奉仕団	防災セミナー：炊き出し 2	支部職員 1
いわき方部赤十字奉仕団連絡協議会	基礎研修	指導講師 1

8 令和4年度赤十字ボランティアのつどい（第11回）

開 催 日	令和4年10月18日(火)
場 所	郡山市・ビッグパレットふくしま
参 加 者	赤十字奉仕団員、関係者 約320名
内 容	<p>1 表彰 (地元紙2紙に受章者名簿を掲載)</p> <p>①奉仕団功労 金杵支部長感謝状 1 団</p> <p>②奉仕団員等奉仕者功労 社長感謝状 1 名、金色有功章90名、銀色有功章 130名、金杵支部長感謝状89名、 銀杵支部長感謝状79名</p> <p>③社資功労 金色有功章 1 名</p> <p>④有功会功労 支部長感謝状 11 有功会</p> <p>⑤有功会役員等功労 支部長感謝状46名</p> <p>2 活動報告 「コロナ禍における奉仕団活動と新入団員の獲得等について」 須賀川市赤十字奉仕団 委員長 林 美枝子 氏</p>



井出副支部長から表彰伝達



活動報告

9 令和4年度赤十字奉仕団と団員数現況

(令和5年3月31日現在)

地域奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	飯野町	0	69	69
2	川俣町	0	200	200
3	平野(たんぼまほうし団)	0	40	40
4	飯坂	0	91	91
5	湯野	0	61	61
6	福島希望	4	18	22
7	吉井田	0	7	7
8	北信(マロニエの会)	0	24	24
9	荒井	0	67	67
10	佐倉	0	42	42
11	伊達	4	25	29
12	保原町	2	202	204
13	梁川町	0	40	40
14	月舘町	0	195	195
15	霊山町	0	63	63
16	桑折町	1	40	41
17	国見町	500	1,500	2,000
18	大玉村	0	32	32
19	二本松市東和	0	81	81
20	二本松市	0	35	35
21	安達	0	39	39
22	二本松市岩代	0	30	30
23	本宮市本宮	3	76	79
24	本宮市白沢	1	53	54
25	郡山市	16	29	45
26	田村町	0	71	71
27	白和田町	1	39	40
28	富久山町	3	33	36
29	須賀川市	18	147	165
30	鏡石町	0	25	25
31	天栄村	6	23	29
32	三春町	0	41	41
33	小野町(すみれ会)	0	33	33
34	都路町	0	45	45
35	船引町	0	41	41
36	大越町	14	14	28
37	滝根町	0	33	33
38	常葉町	10	31	41
39	浅川町	2	25	27
40	玉川村	2	65	67
41	平田村	6	8	14
42	古殿町	2	28	30
43	石川町	4	26	30
44	白河	102	48	150
45	大信	2	56	58
46	白河市表郷	8	15	23
47	三神	0	22	22
48	矢吹町	0	44	44
49	中畑	0	42	42
50	泉崎村	0	104	104
51	西郷村	0	188	188
52	中島村	0	23	23
53	棚倉町	0	55	55

No	奉仕団名	男	女	計
54	矢祭町	0	39	39
55	塙町	5	163	168
56	鮫川村	5	44	49
57	会津若松市	57	548	605
58	西会津	0	39	39
59	山都町	17	43	60
60	喜多方市	0	44	44
61	高郷町	0	29	29
62	塩川町	6	20	26
63	熱塩加納町	27	45	72
64	北塩原村	23	39	62
65	会津坂下町	8	51	59
66	柳津町(ひまわり会)	2	45	47
67	湯川村	0	20	20
68	会津美里町本郷	20	28	48
69	会津美里町高田	0	41	41
70	新鶴地区	0	26	26
71	金山町	2	38	40
72	昭和村	0	26	26
73	三島町	0	31	31
74	北会津	3	35	38
75	猪苗代町	22	15	37
76	磐梯町	2	27	29
77	河東町	22	2	24
78	南会津町田島	6	169	175
79	只見町(ともしび会)	0	157	157
80	下郷町	0	43	43
81	檜枝岐村	0	21	21
82	南会津町南郷	1	0	1
83	南会津町舘岩	13	9	22
84	南会津町伊南	13	23	36
85	平方部	2	157	159
86	内郷方部	0	76	76
87	常磐方部	0	32	32
88	小名浜方部	0	154	154
89	勿来方部	0	102	102
90	いわき市四倉方部	0	123	123
91	いわき市遠野方部	0	122	122
92	好間地域	0	36	36
93	原町	2	40	42
94	鹿島	1	50	51
95	小高	2	21	23
96	相馬市	0	28	28
97	新地町	0	123	123
98	飯館村	2	15	17
99	大熊町	休団中		
100	広野町	5	29	34
101	川内村	0	161	161
102	浪江町	2	17	19
103	富岡町	9	11	20
104	双葉町	休団中		
105	楡葉町	休団中		
106	葛尾村	3	17	20
計①		993	7,558	8,551

青年奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島県立医科大学学生	14	72	86
2	福島青年	24	15	39
3	福島学院大学	19	32	51
4	日本大学工学部	11	4	15
計②		68	123	191

特殊奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島県赤十字安全	63	37	100
2	福島赤十字語学	2	0	2
3	いわき芸能	4	10	14
4	福島赤十字病院	3	11	14
5	日赤福島ボランティア会	24	23	47
6	会津若松市赤十字 防災ボランティア	7	23	30
7	福島県あん摩マッサージ 指圧・はり・きゅう	22	8	30
8	県北地区賛助	93	25	118
9	県中地区賛助	166	19	185
10	県南地区賛助	139	16	155
11	会津地区賛助	115	8	123
12	いわき地区賛助	26	7	33
13	相双地区賛助	108	9	117
計③		772	196	968

特殊奉仕団(アマ無線・防災支援奉仕団)

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島アマ無線	24	3	27
2	会津アマ無線	8	0	8
3	表郷防災支援	10	0	10
4	矢吹アマ無線	6	0	6
5	下郷町アマ無線	17	0	17
6	白沢アマ無線(雷鳥ハムクラブ)	9	1	10
7	安達防災支援	5	0	5
8	郡山アマ無線	9	1	10
9	広野町アマ無線	13	3	16
10	田村市大越アマ無線	3	0	3
11	勿来アマ無線防災支援	5	1	6
12	白河アマ無線	16	8	24
13	石川町アマ無線	14	0	14
14	大玉アマ無線	10	3	13
15	いわきアマ無線	2	1	3
16	二本松防災支援	11	0	11
17	小高アマ無線	8	0	8
18	飯館アマ無線	6	0	6
19	河東防災支援無線	17	1	18
20	岩代アマ無線	4	0	4
21	北会津防災支援	17	1	18
計④		214	23	237

合計①～④	2,047	7,900	9,947
-------	-------	-------	-------

5

青少年赤十字(JRC)の育成

青少年が赤十字の精神に基づき、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の実践活動を通して、社会に貢献できる人間の育成を目指し、小・中・高等学校に組織され、学校教育の一環として活動を進めている。〔JRC：Junior Red Cross〕

1 加盟学校数とメンバー数

(令和5年3月31日現在)

区分	学校数(校)	メンバー数(名)	県内加盟率(%)
幼稚園	17	481	-
小学校	391	77,465	98.5
中学校	206	42,925	96.3
高等学校	35	4,363	34.3
特別支援学校	4	287	15.4
義務教育学校	7	1,243	100.0
計	660	126,764	88.5

※ 計の県内加盟率は幼稚園を除く



2 青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数

【幼稚園】

地区名	園数	男	女	計	指導者数
福島	11	166	124	290	60
田村	1	2	5	7	4
西白河	1	66	60	126	9
相馬	4	28	30	58	22
計	17	262	219	481	95

【小学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
福島	48	6,450	6,246	12,696	789
伊達	18	1,636	1,576	3,212	259
安達	25	2,267	2,056	4,323	348
郡山	52	7,627	7,207	14,834	886
岩瀬	21	2,358	2,256	4,614	331
石川	8	832	765	1,597	116
田村	18	1,336	1,314	2,650	248
西白河	26	2,695	2,644	5,339	431
東白川	8	743	721	1,464	115
会津若松・北会津	26	2,437	2,241	4,678	380
耶麻	20	1,203	1,193	2,396	243
両沼	14	735	673	1,408	97
南会津	14	409	429	838	142
相馬	24	1,991	1,877	3,868	339
双葉	7	194	191	385	80
いわき	62	6,776	6,387	13,163	947
計	391	39,689	37,776	77,465	5,751

【中学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
福島	23	3,694	3,343	7,037	493
伊達	8	847	906	1,753	157
安達	11	1,201	1,151	2,352	205
郡山	26	3,886	3,711	7,597	418
岩瀬	12	1,277	1,211	2,488	179
石川	5	495	462	957	90
田村	9	725	733	1,458	122
西白河	14	1,494	1,407	2,901	260
東白川	4	334	310	644	64
会津若松・北会津	13	1,643	1,619	3,262	239
耶麻	10	553	481	1,034	136
両沼	9	464	463	927	98
南会津	7	282	240	522	93
相馬	11	1,147	1,103	2,250	182
双葉	6	115	84	199	63
いわき	38	3,860	3,684	7,544	630
計	206	22,017	20,908	42,925	3,429

【高等学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
県北	8	60	102	162	76
県南	17	1,594	1,858	3,452	283
会津	4	256	358	614	48
いわき・相双	6	63	72	135	33
計	35	1,973	2,390	4,363	440

【特別支援教育諸学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
県北	1	36	15	51	23
県南	2	135	92	227	125
いわき・相双	1	4	5	9	5
計	4	175	112	287	153

【義務教育学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
郡山	2	221	197	418	40
岩瀬	1	129	138	267	22
会津若松・北会津	1	224	189	413	42
相馬	1	35	33	68	27
双葉	2	31	46	77	41
計	7	640	603	1,243	172

【学校別】

区分	学校数	男	女	計	指導者数	県内の状況（令和4年度）				※ ¹ 全国の状況（令和3年度）	
						学校加盟率（%）	児童生徒加入率（%）	※ ² 全学校数（校）	※ ² 全児童生徒数（人）	学校加盟率（%）	児童生徒加入率（%）
幼稚園	17	262	219	481	95						
小学校	391	39,689	37,776	77,465	5,751	98.5	91.5	397	84,671	36.6	31.4
中学校	206	22,017	20,908	42,925	3,429	96.3	95.3	214	45,065	34.7	30.3
高等学校	35	1,973	2,390	4,363	440	34.3	9.9	102	43,903	36.5	12
義務教育学校	7	640	603	1,243	172	100.0	89.0	7	1,397		
特別支援学校	4	175	112	287	153	15.4	11.8	26	2,424	17.5	14.8
計	660	64,756	62,008	126,764	10,040	88.5	71.0	746	177,460	31.3	24.3

※ 1 日本赤十字社青少年赤十字ボランティア課 資料から抜粋

※ 2 福島県企画調整部統計課編「令和4年度学校基本調査速報」から抜粋

3 青少年赤十字研究推進校の指定

青少年赤十字活動の振興を目的に、加盟校の中から小・中各1校を研究推進校に指定している。指定校は、3年間にわたり研究推進に取り組み、3年目に指導者研修会と学校公開で研究内容を発表する。

◎令和2～4年度

二本松市立二本松北小学校・二本松第一中学校

◎令和4～6年度

須賀川市立第三小学校・第三中学校



4 令和4年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員

役職名	氏名	学校名
会長	横山 貴英	福島市立福島第一小学校
副会長	嶋原 啓美	相馬市立八幡小学校
副会長	武藤 盛男	猪苗代町立緑小学校
副会長	松原 光	学校法人松韻学園福島高等学校
監事	丹伊田伸哉	郡山市立安積第三小学校
監事	粥塚 保則	いわき市立錦小学校
監事	中野 茂	福島県立福島東高等学校

5 令和4年度 各地区指導者協議会長

地区名	氏名	学校名	地区名	氏名	学校名
福島	横山 貴英	福島市立福島第一小学校	耶麻	菅家由紀子	西会津町立西会津小学校
伊達	岩井 智哉	桑折町立睦合小学校	両沼	岩崎 秀幸	湯川村立笈川小学校
安達	佐久間 仁	二本松市立塩沢小学校	南会津	相澤 周	南会津町立荒海小学校
郡山	丹伊田伸哉	郡山市立安積第三小学校	相馬	嶋原 啓美	相馬市立八幡小学校
小中事務局校	宗形 善吉	郡山市立多田野小学校	双葉	佐藤 由弘	大熊町立学び舎ゆめの森
岩瀬	阿部 浩幸	天栄村立大里小学校	いわき	粥塚 保則	いわき市立錦学校
石川	石塚 隆広	石川町立野木沢小学校	県高校	松原 光	松韻学園福島高等学校
田村	高橋 政喜	田村市立美山小学校	県北	中野 茂	福島県立福島東高等学校
西白河	佐藤 康二	白河市立表郷小学校	県南	関口 修	郡山女子大学附属高等学校
東白川	相馬 慶二	鮫川村立鮫川小学校	会津	遠藤 利晴	福島県立会津学鳳高等学校
会津若松・北会津	武藤 盛男	猪苗代町立緑小学校	いわき・相双	千葉 義夫	東日本女子大学附属昌平高等学校

6 会議・研修会

名称	開催日	会場	参加者
①JRC担当者会議	4月8日(金)	福島県支部	Web会議 支部
②JRC創設100周年オープニングイベント	5月5日(木・祝)	各高校	Web会議
③JRC県指導者協議会総会・研修会(第1回)	5月12日(木)	福島県支部	各地区会長
④県高校指導者協議会総会	6月2日(木)	郡山市労働福祉会館	高校JRC担当教諭
⑤県高等学校JRC連絡協議会春季総会	6月2日(木)	郡山市労働福祉会館	高校生メンバー・教諭
⑥全国指導者協議会総会	6月29日(水)	福島県支部	Web会議 会長
⑦県高校リーダーシップ・トレーニングセンター	7月7日(木)～9日(土)	磐梯青少年交流の家	高校生メンバー・教諭
⑧県指導者講習会	8月4日(木)	参加者所属校	Web開催
⑨第1ブロック支部青少年赤十字高校生メンバー交流会	10月1日(土)・2日(日)	ゆとりろ磐梯熱海	高校生メンバー・教諭
⑩国際交流事業(国際交流集会)	10月2日(日)・11月5日(土)	各高校・日赤本社	高校生メンバー・教諭
⑪青少年赤十字福島県指導者研修会・学校公開	10月6日(木)	二本松北小・二本松一中	Web開催 高校生メンバー・教諭
⑫JRC県指導者協議会総会・研修会(第2回)	11月10日(木)	福島県支部	各地区会長
⑬高等学校JRC県大会	11月5日(土)・6日(日)	郡山市交流プラザ	高校生メンバー・教諭
⑭JRC県指導者協議会役員会	令和5年2月9日(木)	福島県支部	役員
⑮福島・栃木 高校生メンバー交流会	2月25日(土)	各高校	Web開催 高校生メンバー・教諭
⑯JRCスタディー・プログラム	3月21日(火)・25日(土)	各高校・日赤本社	高校生メンバー・教諭

7 県内リーダーシップ・トレーニング・センターの開催

リーダーシップ・トレーニング・センターは、青少年赤十字の教育プログラムのひとつであり、集団生活を伴う学習活動の場で赤十字と青少年赤十字について理解を深めるとともに、リーダーとして活躍できる児童・生徒の育成を目指している。

令和4年度に計画した下記地区のトレーニング・センターは、新型コロナウイルス感染防止のため小中は中止したが、高校はオンラインで行うなどした。

【小中】

福島・伊達・安達（7月） 郡山（8月） 西白河（7月） 北会津・会津若松（7月）
耶麻（8月） 両沼（8月） ※すべて中止

【高校】

県高校（7月磐梯青少年交流の家） 県北（7月福島東高等学校）
県南（7月郡山女子大学附属高校） 会津（8月）※中止
いわき・相双（8月オンライン）

8 指導者研修会・講習会等の開催

地区	開催日	内容	会場	参加人数 (人)	主な内容
福島	4月26日(火)	総会・研修会			総会文書審議・研修会中止
伊達	4月25日(月)	総会・研修会	睦合小学校	23	研修会・総会
安達	4月8日(金)	総会・研修会	岳下住民センター	20	総会のみ実施・研修会中止
福・伊・安	7月29日(金)	指導者講習会			中止
郡山	4月7日(木)	総会・研修会			総会文書審議・研修会中止
岩瀬	5月11日(水)	総会・研修会			総会文書審議・研修Web開催
石川	6月6日(月)	総会・研修会	野木沢小	23	総会・研修会
田村	4月28日(木)	総会・研修会	大越公民館	24	総会のみ実施
//	6月14日(火)	指導者講習会	大越公民館	26	救急法
西白河	4月4日(月)	総会・研修会	表郷小	34	総会のみ実施
//	7月26日(火)	指導者研修会			中止
東白川	4月4日(月)	総会・研修会	表郷小	10	総会のみ実施
会津	5月6日(金)	総会・研修会			総会文書審議・研修会中止
//	8月2日(火)	指導者講習会			中止
耶麻	4月7日(木)	総会・研修会	喜多方一小	26	総会のみ実施
//	8月2日(火)	指導者講習会			中止
両沼	4月7日(木)	総会・研修会	高田小	21	総会のみ実施

地区	開催日	内容	会場	参加人数(人)	主な内容
南 会 津	4月7日(木)	総会・研修会	御蔵入交流館	22	総会のみ実施・研修会中止
//	8月2日(火)	指導者講習会	御蔵入交流館	26	救急法
相 馬	4月26日(火)	総会・研修会			Web開催
い わ き	5月26日(木)	総会・研修会			総会文書審議・研修会中止
//	7月29日(金)	指導者講習会			中止
高 等 学 校	6月2日(木)	総会・研修会	郡山市労働福祉会館	71	

9 福島県青少年赤十字賛助奉仕団

「賛助奉仕団」とは、小・中・高等学校で青少年赤十字活動の指導にあっていた元教員が、青少年赤十字の普及発展に寄与することを目的に活動しているボランティア組織である。

ア 団員数 6地区 合計 739名 (令和4年8月1日)
 県北 120名 県中 185名 県南 153名
 会津 130名 いわき 34名 相双 117名

イ 会議等

会議名	場所	参加者(人)	開催日
①県賛助奉仕団総会	日赤県支部	各地区代議員	5月 文書審議
②全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	日赤本社	全国会長1、県委員長1、他1	9月 文書審議
③青少年赤十字100文字作品審査協力	日赤県支部	団員	9月～12月
④NHK海外たすけあい街頭募金	県内主要市	団員	12月
⑤全国賛助奉仕団協議会役員会	日赤県支部	全国役員、県委員長等	2月

10 青少年赤十字防災教育プログラムの普及

県内青少年赤十字加盟校や各地区関係機関への周知・啓発を図った。



5 青少年赤十字(JRC)の育成

各学校での防災教育（児童・生徒向け防災教育プログラム）

	開催日	学校名	内容	参加者数(人)
1	8月9日(火)	いわき市立小川保育所	きけんはっけん	児童生徒22・教員4
2	8月20日(土)	いわき市鹿島公民館	いえまですごろく・ストーリーを完成させよう	児童生徒25・保護者21
3	8月20日(土)	いわき市錦公民館	BCW1 いえまですごろく・非常食体験	児童生徒49・保護者5
4	8月26日(金)	白河市立大信中学校	BCW4	児童生徒96・教員12
5	9月2日(金)	相馬市立山上小学校	非常食体験、きけんはっけん	児童生徒39・教員6
6	9月13日(火) ・14日(水)	いわき市立江名中学校	非常食体験・BCW1 BCW4 他	児童生徒39・教員6
7	9月17日(土)	郡山市永盛公民館	いえまですごろく・非常食体験	児童生徒10・教員4
8	9月27日(火)	福島市立水原小学校	非常食体験・災害時シミュレーション	児童生徒12・教員6 保護者8
9	10月4日(火)	須賀川創英館高等学校	いえまですごろく	児童生徒20・教員2
10	10月27日(木)	須賀川市立仁井田小学校	非常食体験・BCW1	児童生徒40・教員3
11	11月12日(土)	相馬市教育委員会	そうまジュニア防災マスター 非常食体験、いえまですごろく・応急手当	児童生徒22・教員4 保護者8
12	令和5年 2月10日(金)	二本松市立二本松第二中学校	BCW1・いえまですごろく・応急手当	児童生徒124・教員12
13	3月2日(木)	いわき市立植田中学校	応急手当・防災についての講話	児童生徒126・教員5
14	3月10日(金)	棚倉町立近津小学校	BCW3・BCW1・いえまですごろく	児童生徒118・教員12

※BCW=「防災コミュニケーションワークショップ」の略
 BCW1…竹ひごタワー、BCW2…ストーリーを完成させよう、BCW3…ドローイング・チャレンジ、
 BCW4…自分だったらどうする

11 青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集

青少年赤十字加盟校の児童生徒を対象にテーマを設け、「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を詩や100文字に表現した作品の募集を行っている。

- ア 募集期間** 令和4年4月1日～令和4年8月30日
- イ 募集テーマ** 詩 「いのちの詩・愛の詩」
100文字提案 「わたしにできるボランティア」
「わたしのふるさと」
「わたしが感動したことばやできごと」
- ウ 応募校数・応募点数** 48校 2,917点
- エ 作品審査会(2次)** 令和4年11月11日(金)
場所：日本赤十字社福島県支部
- オ 入賞作品** 支部長賞 4点
県指導者協議会長賞 1点
県賛助奉仕団委員長賞 1点
学校賞 5校 学校奨励賞 3校
優秀賞 15点 佳作 91点
入選 185点
- カ 最優秀作品表彰式** 令和4年12月24日(土) 福島県青少年会館



12 青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」の具体的な事業として、本県の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣したり、海外の赤十字メンバーの受け入れを行ったりしている。

- ア 日本赤十字国際交流事業（本社主催・オンライン）への高校生参加**
2回開催 11月5日(土)・11月6日(日)

イ 青少年赤十字活動資金

青少年赤十字メンバー及び賛助奉仕団から「青少年赤十字一円玉募金」への活動資金の寄託があった。

前年度繰越額	本年度寄託額	本年度使用額	本年度日赤本社送金額	本年度末残高
313,130円	42,394円	0円	355,524円	0円

13 青少年赤十字創設100周年事業

2022年（令和4年）は、青少年赤十字が誕生して100年の節目であり、「未来のあなたへ、やさしさを。」をキャッチフレーズにして、全国的に青少年赤十字活動の活性化を図った。

ア オープニングイベントでのメッセージ

5月5日(木・祝)オンラインにて開催。本県在住者がゲストとして全国へメッセージを伝えた。

- 赤十字飛行隊福島支隊パイロット
(エアレースパイロット) 室谷 義秀 氏 「夢を追い求めること」
- いわき市錦公民館長（賛助奉仕団） 松本 光司 氏 「東日本大震災から学んだこと」
- 学校法人松韻学園福島高等学校
(JRC 顧問) 根本 裕之 氏 「人道の輪を広げるために」

イ 第1ブロック支部青少年赤十字高校生メンバー交流会の開催

10月1日(土)・2日(日)、北海道・東北地区の高校生が来県し交流を図った。1日目は郡山市の「ゆとりろ磐梯熱海」にて県外メンバーとオンラインで結ぶハイブリッド形式での交流を行い、2日目には三春町の「コミュタン福島」を見学し原発事故や福島の復興についてグループワークを行った。その際、100周年をあしらった旗に寄せ書きをし、「つなぐ・つづける・つくる」ためのメッセージを発信した。



ウ 記念グッズによる啓発

100周年記念で募集したロゴマークの缶バッジやシール、クリアファイルを配付して、青少年赤十字活動の推進を啓発した。



JRC100周年ロゴマーク

エ 青少年赤十字活動への関心を広げるための啓発

本社が作成した図書「青少年赤十字のひみつ」や「青少年赤十字 創設100周年記念DVD」を加盟校に配付し、今後の青少年赤十字活動の推進・充実につながるよう啓発した。

6

社会福祉活動

1 高齢者福祉対策事業

高齢者作品展示会支部長顕彰
40地区・分区で開催

2 保健衛生事業

○赤十字健康講演会

開催日	会場	講師	演題	参加人数
9月21日(水)	伊達市 保原中央交流館	福島赤十字病院 健診課保健師	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	38人
11月7日(月)	白河市 白河市役所正庁	福島赤十字病院 脳神経内科部医師	脳卒中の予防と治療	27人
11月9日(水)	福島県支部 大会議室	福島赤十字病院 循環器内科部医師	心臓病のはなし	28人
11月18日(金)	南相馬市 原町区福祉会館	福島赤十字病院 リハビリテーション科 理学療法士	ベッドや椅子で1人で安全にお こなえる健康体操	29人
1月21日(土)	川内村 コミュニティセンター	福島赤十字病院 糖尿病・代謝内科部医師	糖尿病の予防と治療	17人

3 地域高齢者生活支援活動

○にこにこ健康教室

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催はなかった。

4 会議・研修会

名称	開催日	場所	参加人数等
①地域包括ケア担当者会議	5月11日(水)	Web会議	支部1
②地域包括ケア担当者会議	10月26日(水)	Web会議	支部1
③地域包括ケア担当者会議	令和5年2月13日(月)～14日(火)	本社	支部1

7

国際活動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟および各国赤十字・赤新月社と連携しつつ、様々な国際活動を行っている。

① 第1ブロック支部による国際活動への参加

第1ブロック（北海道・東北6県）の各支部では、資金を拠出し、国際活動に参加しており、下記の救急法普及支援事業や青少年赤十字海外支援事業を推進している。

第一ブロック国際活動参加費		総 額	福島県支部の拠出額
救急法普及支援事業	ラ オ ス	3,000,000円	490,000円
青少年赤十字海外支援事業	バ ヌ ア ツ	3,000,000円	489,000円
合 計		6,000,000円	979,000円

② 救援金受付状況（福島県支部取扱分）

救 援 金 名	件 数	金 額
①無指定海外救援金	0	0円
②中東人道危機救援金（平成27年度から累計）	2 (28)	40,000円 (343,540円)
③Bangladesh南部避難民救援金	2	40,000円
④アフガニスタン人道危機救援金	2	40,000円
⑤ウクライナ人道危機救援金	101	6,047,585円
⑥2022年Pakistan洪水救援金	4	80,000円
⑦2022年アフガニスタン地震救援金	0	0円
⑧2023年トルコ・シリア地震救援金	76	3,638,107円

③ NHK 海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）

【福島県支部実績】

全 体	822件	10,510,324円
(内訳) 支部受付	312件	3,065,217円
本社扱郵便為替	510件	7,445,107円

街頭募金 7市10会場 225,716円

(福島市、郡山市、白河市3会場、相馬市、南相馬市、会津若松市2会場、いわき市)

④ 安否調査

日本赤十字社は、赤十字国際委員会を中心に、世界192カ国に組織されている各国赤十字・赤新月社との連携によって紛争や災害により行方不明になった家族の消息および安否の調査を行っている。

◎令和4年度 依頼なし

8

広報資料

社旨普及の広報活動は、赤十字の重要な業務であり、あらゆる機会に「人道・博愛」の精神の普及啓発に努めている。

また、この活動は、赤十字関係者に対する社業推進の状況報告を意味するとともに、広く県民に対する協力支持を要請する啓発活動であり、5月8日の世界赤十字デー、5月の赤十字運動月間を中心に展開している。

本年度の社旨普及、広報活動及び主な刊行物は次のとおりである。

① 日赤本社刊行物の配布

赤十字 NEWS（毎月1日発行）	28,400部
青少年赤十字指導情報	2,250部
青少年赤十字機関誌（小）	1,400部
青少年赤十字機関誌（中・高）	850部
赤十字この1年（DVD）	

② 支部発行物の作成配布

ア 社員増強用資料

赤十字社員加入と募集の手引き	20,500部
赤十字のしおり（Q&A）	6,650部
赤十字社員増強運動用チラシ	680,000部
日赤福島県支部広報紙「日赤ふくしま」第47号	395,000部

イ JRC 用資料

青少年赤十字活動4つの勧め	3,000枚
青少年赤十字研究推進校紀要・公開要項	700部
青少年赤十字加盟校名簿	1,000部
うつくしま JRC フォトニュース第60号・61号・62号	各2,700枚
JRC ふくしま（青少年赤十字福島県指導者協議会発行）第68号	2,000部
// 第69号	2,700部
わたしの青少年赤十字 詩・100文字提案作品集	3,100部

③ ホームページ等の開設

ホームページ	https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima (平成14年3月20日開設、令和3年4月1日リニューアル・URL変更)
YouTube	https://www.youtube.com/channel/UC3iXAg1VAiJwvS2lpslfl2w (平成27年6月18日開設)

Instagram <https://www.instagram.com/nissekifukushima>
(平成29年12月1日開設)

Twitter <https://twitter.com/nisseki07>
(平成29年12月1日開設)

Facebook <https://www.facebook.com/people/日本赤十字社福島県支部-100064439812413/>
(平成29年12月1日開設)

4 新聞・テレビ・ラジオ広報

ア 新聞広告（福島民報社・福島民友新聞社） 赤十字運動月間（5月） 防災月間（9月）

イ 本社製作テレビCM（FTV・FCT・KFB・TUF） 赤十字運動月間（5月）

ウ ラジオ広告（ラジオ福島）

ラジオ福島「命を守るキャンペーン～ふくしまゼロアクション～」協賛

ラジオスポット 20秒×50回（年間）

エ 民報テレビ局との連携

県内の情報番組内での赤十字防災プログラム紹介

① KFB 8月16日(火)放映 非常食作り体験

② KFB 3月17日(火)放映 身近なものを使った災害時に役立つ技術



令和4年度赤十字社員増強運動用チラシ



支部広報紙「日赤ふくしま」第47号

9

医療事業

日本赤十字社の病院は、赤十字社の使命を達成するため、(1)災害時における医療救護 (2)巡回診療その他の地域福祉活動 (3)保健活動 (4)一般診療等の事業を行っている。

福島赤十字病院は、地域社会の公的医療機関としての役割の他、救急病院、地域災害医療センター、福島県原子力災害拠点病院として指定され、また、医師の臨床研修及び看護師の養成にも協力している。

① 医療施設

福島赤十字病院（福島県福島市八島町7番7号）



② 診療科（25科）

内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ膠原病内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科

③ 病床数と職員数

許可病床数 296床〔一般 268床 HCU 12床 感染症 6床 精神 10床〕
職員数 597名〔医師 72名（研修医16名含む） 看護師 311名 医療技術員 100名 その他 114名〕

④ 患者数

	外 来			入 院		
	令和4年度(人)	令和3年度(人)	前年度比増減(%)	令和4年度(人)	令和3年度(人)	前年度比増減(%)
総患者数	138,668	142,372	-2.6	82,437	84,554	-2.5
新患者数	9,270	10,200	-9.1	6,679	6,684	-0.1
1日平均	570.7	588.3	-2.6	225.9	231.7	-2.5
平均在院日数(一般)				11.3日	11.5日	-0.2日
病床利用率				72.5%	73.1%	-0.6

5 紹介患者数

	令和4年度	令和3年度	前年度比増減
紹介患者数(人)	6,548	6,639	-91
紹介率(%)	102.6	92.5	10.1

6 救急車両による搬入患者数

	令和4年度	令和3年度	前年度比増減
患者数(人)	3,636	3,359	277
内入院患者数(人)	1,685	1,597	88

7 医療機器の整備 (令和4年度分 主なもの)

品名	規格・型式	台数	メーカー
内視鏡洗浄消毒装置	OER-5	1	オリンパス
全身麻酔システム	Atlan350	1	ドレーゲルジャパン株式会社
解析付心電計	FCP-8700	1	フクダ電子株式会社
検査用生物顕微鏡	エクリップス Ci-L Plus	1	株式会社ニコン
汎用型超音波診断装置	Voluson P8 BT18	1	GEヘルスケアジャパン
汎用型超音波診断装置	Venue Go	1	GEヘルスケアジャパン
アイシングシステム	CE4000	1	日本シグマックス
血小板凝集能測定装置	VerifyNow システム	1	アイ・エル・ジャパン株式会社
全身麻酔器	Carestation750	1	GEヘルスケアジャパン
筋電計	MEM-8301	1	日本光電工業株式会社
MRI 超音波融合画像診断システム	Biojet	1	タカイ医科工業株式会社
下肢静脈瘤治療レーザー	Leonardo Bonsai 1470	1	株式会社インテグラル
造影剤自動注入装置	Civ インジェクションシステム	1	アシスト・ジャパン株式会社
超音波デブリードマン機器	ウルトラキュレット	1	株式会社メディカルキューアンドエイ
アイシングシステム	CE4000	1	日本シグマックス
生物顕微鏡	エクリップス Si	1	株式会社ニコン
インバーターヘマトクリット遠心機	モデル3220	1	久保田商事株式会社
タニケットシステム	Delfi PTSii 60-1000-101-00	1	ジンマー・バイオメット
電動油圧手術台	MOT VS600Di	1	ミズホ株式会社
人工心肺装置	HAS III	1	泉工医科工業株式会社
体外循環用システム	TRUSYS HTS-C 式	1	泉工医科工業株式会社
冷温水槽	メラ HHC-300	1	泉工医科工業株式会社
体外循環自動記録	PC-CAPTEN	1	メディカルトライシステム
除細動器	TEC-5631	1	日本光電工業株式会社
除細動器	TEC-5621	1	日本光電工業株式会社
高周波手術装置	VI03 5ソケットモデル E125000	1	アムコ
全自動散薬分包機	Ai-8080win	1	株式会社トーショー
膀胱尿量測定器	キューブスキャン BioCon-900s	1	株式会社ジェイ・シー・ティー
生物顕微鏡	エクリップス Si	1	株式会社ニコン
超音波画像診断	Aplio flex	1	キャノンメディカルシステムズ株式会社

品名	規格・型式	台数	メーカー
X線発生装置	50kw インバーター一般撮影装置 Radnext50	1	富士フィルムヘルスケア
FPD システム	CALNEO Smart C77一式	1	富士フィルムメディカル
全身麻酔器	Carestation750	1	GE ヘルスケアジャパン
麻酔記録装置		1	フクダコーリン
ベッドサイドモニタ	DS-8400システム	1	フクダ電子株式会社
内視鏡手術システム	VISERA ELITE III	1	オリンパス
外科用X線撮影装置	OPESCOPE ACTENO	1	島津製作所

8 訪問看護ステーションの運営

訪問延べ回数 4,487回

9 各種教室及び相談

ア 各種教室

・母乳栄養と妊娠中の栄養	89名	・父親のための子育てクラス	58組
・もうすぐお母さんクラス	92名	・孫育てクラス	開催なし
・マタニティヨガクラス	開催なし	・お産後サークル	開催なし
・同伴分娩クラス	開催なし	・家族でいいお産	開催なし

イ 相談

・医療相談 7,641回

ウ 各種検診・保健指導

・乳児検診（30日健診）	147名	・各種ドック	421名
・福島市4ヵ月検診	75名	・福島市10ヵ月検診	74名
・協会けんぽ生活習慣病予防健診	989名	・市町村民健診	492名
・妊婦健診（延べ）	1,600名		
・小児健診（福島県県民健康管理調査）	0名	・甲状腺超音波検査（福島県県民健康管理調査）	40名
・避難区域等以外（福島県県民健康管理調査）	18名	・避難区域等以内（福島県県民健康管理調査）	7名
・その他の健診	2,342名	・保健指導	504件

10 血液事業

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいう。

1 献血状況

令和4年度の全血献血量は、200mL換算で対前年度比99.9%の103,117単位であった。
成分献血は対前年度比98.5%、200mL献血については、97.9%、400mL献血は、99.9%であった。
400mL献血比率は、対前年度比0.1ポイント増の96.9%となっている。

単位：バッグ

献血方法	令和4年度			令和3年度			令和2年度	
	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)
成分献血	23,447	30.9	98.5	23,803	31.2	98.1	24,272	31.8
血小板献血	9,412	12.4	102.9	9,143	12.0	100.5	9,099	11.9
血漿献血	14,035	18.5	95.7	14,660	19.2	96.6	15,173	19.9
全血献血	52,376	69.1	99.9	52,454	68.8	100.9	51,963	68.2
400mL献血 ^(ア)	50,741	66.9	99.9	50,784	66.6	100.4	50,598	66.4
200mL献血 ^(イ)	1,635	2.2	97.9	1,670	2.2	122.3	1,365	1.8
合計	75,823	100.0	99.4	76,257	100.0	100.0	76,235	100.0
全血の単位換算数 【(ア×2)+(イ×1)】	103,117		99.9	103,238		100.7	102,561	
400mL献血比率 【ア/(ア+イ)】	96.9%			96.8%			97.4%	

※ 令和4年度の400mL献血比率の状況は、医療需要と同程度の約96.9%で推移している。

2 供給状況

令和4年度は、233,861単位（200mL換算）の血液製剤を供給した。
対前年度比については、血小板製剤が103.3%、血漿製剤が92.7%、赤血球製剤が97.0%、
総供給単位の合計で99.4%と、令和3年度と同等であった。

単位：200mL単位換算

製剤別	令和4年度			令和3年度			令和2年度	
	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)
血小板製剤	109,035	46.6	103.3	105,575	44.9	102.9	102,560	44.0
血漿製剤	23,743	10.2	92.7	25,613	10.9	100.1	25,586	11.0
赤血球製剤	101,083	43.2	97.0	104,194	44.3	99.4	104,837	45.0
合計	233,861	100.0	99.4	235,382	100.0	101.0	232,983	100.0

※ 血漿製剤の単位換算は、FFP-LR120を1単位、FFP-LR240を2単位、FFP-LR480を4単位にて算出。

3 推進会議等の開催

会 議 名	開 催 日	場 所
①令和4年度保健福祉事務所等業務担当課長等会議	4月26日(火)	WEB開催 (Zoom)
②令和4年度福島県献血推進協力会総会	7月26日(火)	福島県薬剤師会館
③令和4年度福島県献血推進協議会	—	書面開催

4 献血思想の普及啓発・行事

献血思想の普及と献血意識の高揚を図り、献血運動を推進するため、広報活動を実施した。

ア 「愛の血液助け合い運動」の実施

主 催：福島県、各市町村、日本赤十字社福島県支部

期 間：令和4年7月1日～31日

実施内容：ポスター等の広報資材を各保健福祉事務所、市町村に配布、県内各方部において、赤十字奉仕団、青少年赤十字メンバー等と共に献血を呼びかけた。

街頭献血キャンペーン：県内13市で実施



イ 「献血感謝デー」等の開催

福島県赤十字血液センター、いわき出張所および郡山駅前出張所において新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら開催。

場 所	開 催 日	献血者数
福島県赤十字血液センター	令和5年3月11日(土)、12日(日)の2日間 固定：福島献血ルーム バス：イオン福島店	固定：計118名 バス：計 87名
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和5年3月14日(火)・16日(木)・18日(土)の3日間	計122名
福島県赤十字血液センター 郡山駅前出張所	令和5年3月20日(月)～22日(水)の平日3日間	計220名

※ いわき出張所の開所日は毎週 火・木・土曜日

ウ 夏休み血液センター親子見学会

福島県赤十字血液センター・いわき出張所において新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら開催。

場 所	開 催 日	参加者
福島県赤十字血液センター	令和4年8月11日(木祝)	36名
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和4年8月16日(火)	25名

エ キャンペーン

① 「全国学生クリスマス献血キャンペーン2022」

主 催：全国学生献血推進実行委員会

期 間：令和4年12月1日～12月31日

月 日	場 所	献血者数
12月11日(日)	MEGA ドン・キホーテ UNY 会津若松店	67名
12月11日(日)	イオンいわき店	135名
12月22日(木)	猪苗代町役場	115名
12月25日(日)	JR 福島駅東口広場	46名
12月19日(月)～ 12月25日(日)	福島献血ルーム 郡山駅前献血ルーム いわき献血ルーム	75名



② 令和5年「はたちの献血」キャンペーン

主 催：厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

期 間：令和5年1月1日～2月28日

月 日	場 所	献血者数
1月22日(日)	イオンいわき店 バス2台	81名
2月4日(土)	福島駅東口広場	40名
2月5日(日)	ヨークベニマル福島西店	56名
2月19日(日)	ヨークベニマル野田店	47名



5 骨髄ドナーの登録者受入及び登録状況

骨髄移植推進財団が推進する骨髄バンク事業のうち、日本赤十字社は造血幹細胞提供支援機関の指定を受け、骨髄提供希望者の登録管理業務を行っている。

骨髄バンク集団登録説明会及び献血併行型ドナー登録会は、県骨髄バンク推進協議会と各保健所が中心となり、今年度県内で71回実施され、403人が登録者した。

福島県の総登録者数 14,075人

6 日本赤十字社有功章社員等贈与規則に基づく表彰

ア 献血団体功労

- ①社長感謝状 8団体
- ②金色有功章 8団体
- ③銀色有功章 17団体
- ④支部長感謝状（金枠） 19団体
- ⑤支部長感謝状（銀枠） 10団体

イ 献血推進団体功労

- ①社長感謝状 0団体
- ②金色有功章 2団体
- ③銀色有功章 1団体
- ④支部長感謝状（金枠） 3団体
- ⑤支部長感謝状（銀枠） 2団体

11

評議員会

- (1) 令和4年6月 令和4年度第1回評議員会
議案第1号 令和3年度日本赤十字社福島県支部事業報告及び収支決算について
議案第2号 令和3年度福島赤十字病院事業報告及び収支決算について
議案第3号 令和3年度福島県赤十字血液センター事業報告について
- (2) 令和5年2月 令和5年度第2回評議員会
議案第1号 令和5年度日本赤十字社福島県支部事業計画及び収支予算について
議案第2号 令和5年度福島赤十字病院事業計画及び収支予算について
議案第3号 令和5年度福島県赤十字血液センター事業計画について
議案第4号 日本赤十字社福島県支部監査委員の選出について

12

業務監理執行及び会計の監査

令和4年6月6日、監査委員により、次のとおり令和3年度業務監理執行並びに会計について書面による監査が実施された。

- 令和3年度日本赤十字社福島県支部の業務監理執行及び会計の監査
- 令和3年度福島赤十字病院の業務監理執行及び会計の監査
- 令和3年度福島県赤十字血液センターの業務監理執行の監査

13 赤十字社員増強運動

① 赤十字社員増強運動の推進と成果

ア 赤十字社員数

日本赤十字社は、社員をもって組織されており、毎年5月を中心に社員増強運動を展開している。当支部の社員数は下表のとおりである。

	社 員 数
社員（個人）	2,927名
社員（法人）	865法人
合 計	3,792名・法人

※ 社員…赤十字の理念と活動に賛同いただき、社費として年2,000円以上ご協力の方

イ 社資募集実績額

赤十字の事業は、社員が納入する社費（会費）と寄付金を財源として実施している。令和4年度の社資（社費及び寄付金）実績額は下表のとおりである。

	社資目標額	社資実績額	達成率
一般社資	259,104,000円	245,546,061円	94.8%
法人社資	10,000,000円	18,051,702円	180.5%
合 計	269,104,000円	263,597,763円	98.0%

ウ 令和4年度社資実績額表

（単位：円）

	地区名	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率（%）	前年度実績額
市 地 区	福島市地区	37,513,000	32,730,879	2,285,552	35,016,431	93.3	34,705,333
	伊達市地区	9,834,000	10,108,250	0	10,108,250	102.8	9,633,000
	二本松市地区	8,362,000	9,220,000	100,000	9,320,000	111.5	7,810,500
	本宮市地区	4,108,000	3,467,760	0	3,467,760	84.4	3,334,000
	郡山市地区	41,868,000	36,186,400	0	36,186,400	86.4	39,336,385
	田村市地区	5,562,000	5,471,500	16,178	5,487,678	98.7	5,197,000
	須賀川市地区	8,917,000	7,621,590	0	7,621,590	85.5	7,698,270
	白河市地区	8,198,000	6,951,300	6,222	6,957,522	84.9	8,054,113
	会津若松市地区	16,073,000	9,307,979	2,604,121	11,912,100	74.1	15,954,864
	喜多方市地区	7,254,000	6,509,631	0	6,509,631	89.7	6,558,876
	南相馬市地区	6,576,000	6,527,000	20,000	6,547,000	99.6	7,400,500
	相馬市地区	4,226,000	3,866,400	55,000	3,921,400	92.8	3,977,050
	いわき市地区	42,438,000	38,732,753	0	38,732,753	91.3	39,710,300
	市地区合計	200,929,000	176,701,442	5,087,073	181,788,515	90.5	189,370,191

(単位：円)

	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
県北	川俣町分区	2,418,000	2,302,200	0	2,302,200	95.2	2,349,600
	桑折町分区	1,851,000	1,752,500	0	1,752,500	94.7	1,754,500
	国見町分区	1,723,000	1,815,022	0	1,815,022	105.3	1,834,004
	大玉村分区	985,000	1,081,000	0	1,081,000	109.7	1,086,500
	県北地区計	6,977,000	6,950,722	0	6,950,722	99.6	7,024,604
県中	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	三春町分区	2,416,000	2,191,260	0	2,191,260	90.7	2,195,250
	小野町分区	1,580,000	1,421,500	0	1,421,500	90.0	2,435,000
	鏡石町分区	1,653,000	1,607,500	0	1,607,500	97.2	1,600,000
	天栄村分区	857,000	825,000	0	825,000	96.3	831,600
	石川町分区	2,276,000	1,888,337	0	1,888,337	83.0	1,903,501
	玉川村分区	909,000	867,000	0	867,000	95.4	865,000
	平田村分区	919,000	813,000	0	813,000	88.5	821,500
	浅川町分区	895,000	833,500	0	833,500	93.1	840,500
	古殿町分区	889,000	766,000	0	766,000	86.2	764,500
	県中地区計	12,394,000	11,213,097	0	11,213,097	90.5	12,256,851
	県南	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)
西郷村分区		2,313,000	2,455,500	7,000	2,462,500	106.5	2,454,000
泉崎村分区		798,000	840,500	0	840,500	105.3	832,000
中島村分区		661,000	566,500	0	566,500	85.7	565,000
矢吹町分区		2,152,000	2,057,550	0	2,057,550	95.6	2,063,250
棚倉町分区		2,024,000	1,931,617	0	1,931,617	95.4	1,773,500
矢祭町分区		910,000	808,500	0	808,500	88.8	824,000
塙町分区		1,631,000	1,428,090	0	1,428,090	87.6	1,411,730
鮫川村分区		594,000	622,000	0	622,000	104.7	580,000
県南地区計		11,083,000	10,710,257	7,000	10,717,257	96.7	10,503,480
会津	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	磐梯町分区	565,000	530,000	0	530,000	93.8	527,500
	猪苗代町分区	2,529,000	2,788,874	0	2,788,874	110.3	2,338,450
	北塩原村分区	527,000	574,200	0	574,200	109.0	378,500
	西会津町分区	1,382,000	1,203,501	0	1,203,501	87.1	1,191,501
	会津坂下町分区	1,992,000	1,609,150	0	1,609,150	80.8	1,735,800
	湯川村分区	438,000	420,600	0	420,600	96.0	1,091,000
	柳津町分区	622,000	525,105	0	525,105	84.4	554,000
	会津美里町分区	3,231,000	2,863,320	0	2,863,320	88.6	2,909,710
	三島町分区	385,000	323,500	1,000,000	1,323,500	343.8	1,334,500
	金山町分区	568,000	472,000	0	472,000	83.1	488,000
	昭和村分区	401,000	415,100	0	415,100	103.5	403,900
	会津地区計	12,640,000	11,725,350	1,000,000	12,725,350	100.7	12,952,861
南会津	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	南会津町分区	2,922,000	2,453,300	1,000	2,454,300	84.0	2,523,000
	下郷町分区	1,088,000	1,072,336	8,000	1,080,336	99.3	1,088,162
	檜枝岐村分区	118,000	95,000	0	95,000	80.5	97,500
南会津地区計	5,087,000	4,247,636	9,000	4,256,636	83.7	4,373,162	
相双	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	新地町分区	1,189,000	1,162,500	0	1,162,500	97.8	1,159,000
	飯舘村分区	310,000	137,000	5,000	142,000	45.8	288,600
	双葉町分区	100,000	250,800	0	250,800	250.8	271,800
	楢葉町分区	733,000	1,770,500	0	1,770,500	241.5	1,668,000
	広野町分区	500,000	568,500	0	568,500	113.7	1,086,275
	富岡町分区	300,000	691,600	0	691,600	230.5	508,400
	川内村分区	344,000	742,400	0	742,400	215.8	745,500
	大熊町分区	130,000	533,109	0	533,109	410.1	1,195,171
	浪江町分区	318,000	380,800	0	380,800	119.7	598,600
葛尾村分区	70,000	138,000	0	138,000	197.1	255,500	
相双地区計	3,994,000	6,375,209	5,000	6,380,209	159.7	7,776,846	

(単位：円)

	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
郡地区計	52,175,000	51,222,271	1,021,000	52,243,271	100.1	54,887,804
地区分区計	253,104,000	227,923,713	6,108,073	234,031,786	92.5	244,257,995

	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
支部	支部直接(個人)	6,000,000	17,622,348	17,622,348	293.7	22,263,055
	支部直接(法人)	10,000,000		11,943,629	119.4	22,260,537
支部扱合計	16,000,000	17,622,348	11,943,629	29,565,977	184.8	44,523,592

	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
一般社資合計	259,104,000	245,546,061		245,546,061	94.8	261,212,637
法人社資合計	10,000,000		18,051,702	18,051,702	180.5	27,568,950
福島県支部合計	269,104,000	245,546,061	18,051,702	263,597,763	98.0	288,781,587

工 社資目標額と実績額の推移

	社資目標額(千円)			社資実績額(円)			達成率(%)
	一般	法人	合計	一般	法人	合計	
令和4年度	259,104	10,000	269,104	245,546,061	18,051,702	263,597,763	98.0
令和3年度	259,104	10,000	269,104	261,212,637	27,568,950	288,781,587	107.3
令和2年度	259,104	10,000	269,104	301,752,423	21,837,377	323,589,800	120.2
令和元年度	256,299	10,000	266,299	254,272,806	19,467,118	273,739,924	102.8
平成30年度	256,299	10,000	266,299	281,454,989	22,030,260	303,485,249	114.0
平成29年度	256,299	10,000	266,299	267,308,697	28,601,881	295,910,578	111.1
平成28年度	259,335	10,000	269,335	271,623,533	17,108,292	288,731,825	107.2
平成27年度	255,335	8,000	263,335	276,792,490	21,545,712	298,338,202	113.3
平成26年度	255,335	8,000	263,335	266,524,268	15,934,934	282,459,202	107.3
平成25年度	251,685	8,000	259,685	267,102,167	20,592,171	287,694,338	110.8
平成24年度	256,269	10,000	266,269	250,382,306	8,776,731	259,159,037	97.3

2 表彰

ア 社資功労表彰

(ア) 紺綬褒章 【1件】

(社資500万円以上の個人並びに1,000万円以上の法人)

市町村	個人	法人
福島市	1	

(イ) 厚生労働大臣感謝状 【5件】

(同一年度内に社資100万円以上の個人並びに300万円以上の法人)

市町村	個人	法人
須賀川市	1	
会津若松市	1	
喜多方市	1	
南相馬市	1	
東京都	1	



(ウ) 社長感謝状 【13件】

(金色有功章受章後の社資が50万円以上都度)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市		3
伊 達 市	1	
郡 山 市	2	
須 賀 川 市	1	

市 町 村	個 人	法 人
会 津 若 松 市	1	1
喜 多 方 市	1	
南 相 馬 市	2	
い わ き 市	1	

(ク) 金色有功章 【18件】

(社資が50万円以上)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	1	
伊 達 市	1	
郡 山 市	1	1
田 村 市	1	

市 町 村	個 人	法 人
白 河 市	1	
南 相 馬 市	1	
猪 苗 代 町	1	

(カ) 銀色有功章 【23件】

(社資が20万円以上)

市 町 村	個 人	法 人
伊 達 市	3	
郡 山 市	3	4
会 津 若 松 市	1	
喜 多 方 市	2	1
南 相 馬 市	1	
相 馬 市	1	
三 春 町	1	

市 町 村	個 人	法 人
鏡 石 町	1	
鮫 川 村	1	
北 塩 原 村	1	
会 津 坂 下 町	1	
大 熊 町	1	
仙 台 市	1	

イ 業務功労表彰

(ア) 役職功労 【金色有功章2件、銀色有功章1件】

市 町 村	役 職	金 色 有 功 章	銀 色 有 功 章
福 島 市	代 議 員	1	
郡 山 市	協 賛 委 員	10	18
い わ き 市	代 議 員	1	
西 会 津 町	協 賛 委 員	1	1
南 会 津 町	分 区 長	1	

- (イ) 奉仕団員等奉仕者 【社長感謝状1件（金色有功章受章後活動年数10年以上）、
金色有功章92件（活動年数20年以上）、
銀色有功章131件（活動年数15年以上）】

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
福島市		3	15
伊達市		5	7
二本松市		3	26
本宮市		4	8
郡山市		3	4
須賀川市		10	
会津若松市		28	7
喜多方市		4	4
南相馬市		1	2
相馬市		1	
いわき市		4	13
桑折町			4
大玉村		1	1
三春町		1	
小野町		3	1
玉川村		1	
古殿町			1

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
西郷村		1	1
泉崎村		6	8
中島村			1
矢吹町		3	6
棚倉町			1
塙町			11
鮫川村		2	
北塩原村			2
西会津町			1
会津坂下町		1	
柳津町		4	1
会津美里町	1	1	1
南会津町			3
下郷町		1	
新地町			1
飯舘村		1	
宮城県			1

(ウ) 献血者 【金色有功章102件（献血100回以上）、銀色有功章166件（献血70回以上）】

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
福島市	34	39
伊達市	5	6
二本松市	6	6
本宮市	2	
郡山市	15	37
田村市	3	3
須賀川市	4	8
白河市	1	1
会津若松市	2	5
南相馬市	2	4
相馬市	2	3
いわき市	16	29
川俣町	2	1
桑折町	1	1
国見町		1
大玉村	1	
三春町	1	3

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
小野町		2
鏡石町		1
石川町	2	
古殿町		1
西郷村		4
泉崎村		1
矢吹町	1	1
磐梯町		1
猪苗代町		1
湯川村		1
南会津町		1
只見町		1
新地町		1
楢葉町		1
富岡町		1
浪江町	1	1
葛尾村	1	

3 優良地区・分区の表彰

社資増強運動推進の結果、社資目標額に対し実績額が特に顕著な地区・分区に「日本赤十字社福島県支部社資功労表彰要綱」により表彰を行った。

表彰対象地区・分区（市地区120%以上、150%以上）【2分区】

地区・分区名	社資目標額	社資実績額	達成率
三島町分区	385,000円	1,323,500円	343.8%
川内村分区	344,000円	742,400円	215.8%



4 地区有功会の結成状況

有功章受章者を会員とする地区（地方・分区）有功会は、現在15地区で結成されており、赤十字の社旨普及と仲間づくり（社員加入促進）を目的として活動を展開し、赤十字活動の支援組織としての役割を担っている。

（令和4年12月1日現在）

名 称	結 成	会長名	会 員 数					事務局	付記
			社資(個)	社資(法)	業務	献血	合計		
1 福島市地区有功会	H6.4.12	小田 長次	21	49	0	0	70	福島市地区	
2 郡山市地区有功会	H5.5.11	遠藤 君子	22	37	35	0	94	郡山市地区	
3 いわき市地区有功会	H5.5.25	猪狩 正明	33	49	0	0	82	いわき市地区	
4 会津若松市地区有功会	S46.5.26	宮森 泰弘	50	11	0	0	61	会津若松市地区	
5 喜多方市地区有功会	S49.10.28	武藤 顕夫	90	0	11	25	126	喜多方市地区	
6 田村市地区有功会	H18.3.23	今泉 富代	8	1	12	1	22	田村市地区	
7 相馬市地区有功会	H13.11.22	猪又 輝雄	2	3	0	0	5	相馬市地区	
8 伊達地方有功会	H6.3.24	浅野 榮	6	2	31	2	41	伊達市地区	
9 安達地方有功会	S44.2.15	渡辺 初治	19	15	34	0	68	二本松市地区	
10 県中地区有功会	H17.6.16	—	—	—	—	—	—	県中地区	休会
11 会津地区有功会	H18.5.31	鈴木 政英	68	13	108	193	382	会津地区	
12 南会津地区有功会	S47.4.5	渡部進一郎	25	5	0	0	30	南会津地区	
13 相馬地方有功会	S41.9.3	濱田 幸政	19	11	0	0	30	相双地区	
14 双葉地方有功会	H6.4.19	—	—	—	—	—	—	相双地区	休会
15 猪苗代町分区有功会	H3.1.29	大坂 恭一	20	0	25	36	81	猪苗代町分区	
		会津地区にも重複加入している猪苗代町の会員	-19	0	-23	-29	-71		
合 計			364	196	233	228	1,021		

5 日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等

名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
①有功会連合会総会	6月30日(木)	会津若松市	地区有功会長・事務局25
②紺綬・有功会会長協議会総会	10月6日(木)	大 阪 府	県有功会連合会長、支部2
③福島県有功会員交流会	11月24日(木)	郡 山 市	有功会員・事務局41
④有功会運営協議会	令和5年3月10日(金)	福島県支部	有功会長・事務局23

6 組織振興課関係会議・研修会等

名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
①地区分区担当課長・担当者会議	4月20日(水)	福 島 市	担当課長・担当者47
②全国赤十字大会	5月19日(木)	東 京 都	寄付者・代議員・支部6
③地区・分区新任担当者研修会	5月26日(木)	福島県支部	新任担当者29
④第1ブロック振興担当課長会議	7月7日(木)	(北海道支部)	Web参加1
⑤地区長会議	令和5年1月26日(木)	福島県支部	副地区長等14

14 会計報告

① 令和4年度一般会計歳入歳出決算報告

福島県支部

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
社 資 収 入	270,290,965	災 害 救 護 事 業 費	117,699,565
補助金及び交付金収入	12,378,672	社 会 活 動 費	71,064,356
災害義援金預り金収入	69,497,982	国 際 活 動 費	7,672,202
繰 入 金 収 入	16,073,535	指 定 事 業 地 方 振 興 費	10,493,202
貸付金償還金収入	6,660,000	地 区 分 区 交 付 金 支 出	45,241,103
雑 収 入	3,243,486	社 業 振 興 費	25,354,390
前 年 度 繰 越 金	92,752,539	基 盤 整 備 交 付 金 ・ 補 助 金 支 出	231,572
		償 還 金 支 出	6,660,000
		積 立 金 支 出	27,841,560
		総 務 管 理 費	39,376,581
		資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	17,133,581
		本 社 送 納 金 支 出	38,129,664
計	470,897,179	計	406,897,776
		収 入 支 出 差 引 額	63,999,403

② 令和4年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告

福島赤十字病院

収益の収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
医 業 収 益	7,468,059,967	医 業 費 用	8,397,367,990
医 業 外 収 益	1,360,009,934	医 業 外 費 用	35,192,642
医療社会事業収益	1,654,176	医 療 奉 仕 費 用	90,463,329
付 帯 事 業 収 益	37,938,871	付 帯 事 業 費 用	43,406,011
特 別 利 益	125,727	特 別 損 失	9,541,560
計	8,867,788,675	計	8,575,971,532
		収 入 支 出 差 引 額	291,817,143

資本的収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
固 定 負 債	41,833,000	固 定 資 産	222,865,005
そ の 他 資 本 収 入	656,182,392	借 入 金 等 償 還	475,150,387
計	698,015,392	計	698,015,392
		収 入 支 出 差 引 額	0

15

日本赤十字社福島県支部役員名簿

(令和5年6月1日現在)

役職名	氏名	公職名	役職名	氏名	公職名
支部長	内堀 雅雄	福島県知事	評議員	佐藤 一彦	本宮市保健福祉部長
副支部長	佐藤 宏隆	福島県副知事	//	引地 真	国見町長
監査委員	横山 克英	会津若松市地区有功会副会長	//	澤村 和明	平田村長
//	菅野 裕之	大東銀行取締役	//	木賊 正男	鏡石町長
//	小野佐重喜	福浜大一建設㈱取締役常務執行役員	//	加藤 幸一	中島村長
本社理事	小櫻 輝	会社役員	//	佐川正一郎	矢祭町長
代議員	小櫻 輝	会社役員	//	薄 友喜	西会津町長
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長	//	杉山 純一	会津美里町長
//	濱田 幸政	相馬地方有功会長	//	渡部進一郎	南会津地区有功会長
//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長	//	濱田 幸政	相馬地方有功会長
//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長	//	鈴木 愛子	広野町赤十字奉仕団委員長
//	飯間香保子	赤十字奉仕団指導講師	//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長
評議員	村田 泰一	福島市健康福祉部長	//	芳見 弘一	福島民報社代表取締役社長
//	高村 劼	福島市地区有功会理事	//	高野 武彦	福島県社会福祉協議会副会長
//	阿部 隆	福島市地区有功会監事	//	中川 俊哉	福島民友新聞社代表取締役社長・編集主幹
//	飯沼 育子	福島市湯野赤十字奉仕団委員長	//	嶋原 理	青少年赤十字福島県指導者協議会長
//	新井田昭一	会津若松市健康福祉部長	//	平栗 辰也	福島県赤十字安全奉仕団委員長
//	酒井 紹雄	会津地区青少年赤十字賛助奉仕団顧問	支部参与	國分 守	福島県保健福祉部長
//	太田 健三	郡山市社会福祉協議会長	//	加賀谷宏明	福島県保健福祉部保健福祉総務課長
//	佐久間喜重	郡山市献血推進協会会長	//	佐々木利幸	福島県保健福祉部社会福祉課長
//	松田 信三	郡山市保健福祉部長	//	風間 秀元	福島県保健福祉部業務課長
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長	//	渡辺 仁	福島県危機管理部長
//	強口 暢子	いわき市社会福祉協議会長	//	工藤 宇裕	福島県危機管理部災害対策課長
//	園部 衛	いわき市保健福祉部長	//	大沼 博文	福島県教育委員会教育長
//	矢吹 和義	平地区保健福祉センター所長	//	菅野 崇	福島県教育庁理事兼政策監
//	遠藤トモ子	いわき方部赤十字奉仕団連絡協議会長	//	鈴木 正和	福島県教育庁社会教育課長
//	菊地 浩明	白河市保健福祉部長	//	川井 孝寿	福島県教育庁義務教育課長
//	菰川 千寿	須賀川市市民福祉部長	//	星 光政	元日赤県支部事務局長
//	齋藤 勇	喜多方市社会福祉協議会長	//	谷口 幸子	元日赤県支部事務局長
//	武澤美保子	相馬市社会福祉協議会常務理事・事務局長	//	高萩 秀則	元日赤県支部事務局長
//	遠藤 吉次	二本松市社会福祉協議会副会長	//	太田 久雄	元日赤県支部事務局長
//	鈴木 克実	田村市保健福祉部長	//	穴沢 正行	元日赤県支部事務局長
//	村上 勇一	南相馬市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長
//	長沢 弘美	伊達市健康福祉部長	//	篠木 敏明	前日赤県支部事務局長

令和4年度日本赤十字社福島県支部現勢

(令和5年3月31日現在)

■沿革

明治22年(1889)	6月…日本赤十字社福島県委員部発足
明治27年(1894)	1月…福島県委員部を福島支部と改称
昭和18年(1943)	8月…福島療院開設
昭和19年(1944)	8月…福島療院を福島赤十字病院と改称
昭和27年(1952)	10月…日本赤十字社福島県支部と改称
昭和37年(1962)	2月…福島赤十字病院移転新築
昭和46年(1971)	4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
昭和46年(1971)	4月…福島県赤十字血液センター開設
昭和56年(1981)	4月…福島県会津赤十字血液センター開設
昭和61年(1986)	4月…福島県いわき赤十字血液センター開設
昭和63年(1988)	11月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所開設
平成10年(1998)	4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
平成10年(1998)	4月…福島県赤十字血液センター移転新築
平成11年(1999)	11月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所開設
平成13年(2001)	9月…福島県赤十字血液センター原町供給出張所開設
平成18年(2006)	7月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所移転(リニューアル)
平成23年(2011)	11月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
平成24年(2012)	3月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所移転
平成27年(2015)	6月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
平成29年(2017)	2月…福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所移転
平成31年(2019)	1月…福島赤十字病院移転新築開院

■社員……………(個人) 2,927名、(法人) 865法人

■評議員……………39名

■役員 支部長 内堀 雅雄 副支部長 井出 孝利
 監査委員 3名 参 与 17名

■施設及び職員

施設名	所在地	電話番号	職員数
日本赤十字社福島県支部	〒960-1197 福島市永井川字北原田17	024-545-7997	17名
福島赤十字病院	〒960-8530 福島市八島町7-7	024-534-6101	597名
福島県赤十字血液センター	〒960-1198 福島市永井川字北原田17	024-544-2550	66名
福島県赤十字血液センター会津出張所	〒965-0003 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-6	0242-24-6650	14名
福島県赤十字血液センターいわき出張所	〒970-8044 いわき市中央台飯野五丁目1-1	0246-29-5624	15名
郡山駅前出張所(郡山駅前献血ルーム)	〒963-8002 郡山市駅前一丁目6番10号	024-925-2638	16名
福島県赤十字血液センター郡山供給出張所	〒963-8044 郡山市備前館一丁目132番地	024-927-5199	9名
福島県赤十字血液センター相馬供給出張所	〒976-0152 相馬市栗津字栗津18番地7	0244-35-6066	4名

■ 県市町村組織

	合計数	郡	市	町	村
地区	19	6	13		-
分区	108	-	62		46
計	127	6	75		46

■ 災害救護

救護班・救護員	8班・301名(令和5年3月31日現在)	
無線局	基地局 2局、移動局 50局	
救 援 車 両	救 急 車	支部1台、病院2台
	医師派遣用自動車	支部1台、病院1台
	災害救援車	支部8台、病院1台
救 援 物 資 (在庫数)	毛布	5,649枚
	バスタオル	1,931枚
	緊急セット	3,325個
	安眠セット	502個
	タオルケット	600枚

■ 医療事業

施設名	福島赤十字病院		
診療科・病床総数	25科 296床		
患者数	入院	82,437名	1日平均 225.9名
	外来	138,668名	1日平均 570.7名

■ 血液事業

献 血 者 数		血液製剤供給 (200mL 換算)	
成分献血	23,447名	赤血球製剤	101,083単位
400mL献血	50,741名	血漿製剤	23,743単位
200mL献血	1,635名	血小板製剤	109,035単位
合計	75,823名	合計	233,861単位

■ 青少年赤十字

区分	加盟校数	メンバー数
幼稚園	17	481
小学校	391	77,465
中学校	206	42,925
高等学校	35	4,363
特別支援学校	4	287
義務教育学校	7	1,243
合計	660	126,764
研究推進指定校	小学校 2校、中学校 2校	

■ 赤十字奉仕団

区分	団 数	団員数
地域	106	8,551
青年	4	191
特殊	34	1,205
合計	144	9,947
指導講師		9名

■ 講習・防災セミナー普及活動

	指 導 員	受講者数
救 急 法	100名	5,821名
水 上 安 全 法	17名	1,094名
幼 児 安 全 法	41名	678名
健康生活支援講習	26名	559名
防 災 セ ミ ナ ー		2,084名
合計(重複除く)	184名	10,236名

■ 看護師養成

学 校	学 生 数
日本赤十字秋田看護大学	9名
日本赤十字看護大学	0名
日本赤十字北海道看護大学	2名
合計	11名

■ 国際活動

第一ブロック 支部参加事業	総 額	
	救急法普及支援事業	ラオス 3,000,000円 (490,000円)
	青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ 3,000,000円 (489,000円)

※()内は福島県支部の負担金額

新型コロナウイルス感染症への日本赤十字社福島県支部のこれまでの対応

令和5年3月末現在

1 クルーズ船対応

厚生労働省からの派遣依頼を受けた日赤本社、厚生労働省 DMAT 事務局からの派遣要請に応え、横浜港に停泊したクルーズ船（ダイヤモンド・プリンセス号）に救護班や DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣した。

(1) 救護班

乗客乗員の医療、健康管理を行う船内メディカルセンターの支援活動を実施

派遣要員	活動日	派遣元
医師1・看護師2・主事1・薬剤師1 計5名	令和2年2月18日～2月20日	福島赤十字病院

(2) DMAT

乗客乗員の医療、感染者の搬送や医療本部活動を実施

派遣要員	活動日	派遣元
医師1・看護師2・業務調整員2* 計5名	令和2年2月14日	福島赤十字病院ほか
医師1・看護師2・業務調整員2* 計5名	// 2月18日	福島赤十字病院ほか
業務調整員1 計1名	// 2月19日～2月21日	福島県支部

※ 業務調整員2名は支部職員（うち1名は2月19日～21日まで引き続き活動）

〈令和2年11月18日、天皇后両陛下が全国の赤十字病院の代表の一つとして福島赤十字病院をオンラインでご視察され、上記クルーズ船対応にあたった職員に励ましのお言葉をいただいた。〉

2 福島赤十字病院における感染者の受け入れ

感染症指定医療機関である福島赤十字病院で感染者の受け入れを行っている。



3 福島県新型コロナウイルス感染症対策本部への支援

(1) 令和2年4月7日、福島県からの DMAT 派遣要請に応え、当支部の DMAT 隊員を福島県 DMAT 調整本部に派遣し、福島県新型コロナウイルス感染症対策本部の支援業務を行った。

（令和2年4月7日 2名、令和2年4月8日～5月29日 1名）

(2) 福島県新型コロナウイルス感染症対策本部からの要請により職員を派遣し、本部（県庁）や保健所、感染症が発生した医療機関で福島県感染症対策支援チームの一員として支援業務を行った。

[令和2年度]

支部職員3名 18日間（令和2年12月20日～令和3年3月19日）
病院職員2名 11日間（令和3年1月22日～3月9日）

[令和3年度]

支部職員2名 23日間（令和3年5月3日～令和4年3月4日）
病院職員1名 14日間（令和3年4月26日～令和4年3月7日）

[令和4年度]

支部職員1名 5日間（令和4年5月12日～令和4年7月11日）
病院職員2名 10日間（令和4年4月20日～令和4年7月20日）



〈上記人員の派遣について、令和3年3月1日、福島県と「福島県感染対策支援チームの設置に関する協定」を締結した。〉

4 支部職員による福島赤十字病院の支援

福島赤十字病院が病院入り口で実施している来院者の手指消毒や検温等の業務を支援するため、令和2年5月11日から令和3年3月31日までの平日、毎日支部職員を派遣した。

なお、令和2年12月に発生した院内感染対応のため、12月17日から看護師2名を含む1日あたり最大4名の支部職員を派遣し、支援にあたった。

5 日本赤十字社福島県支部災害救護訓練の実施

例年の内容に加え、感染防御や個人防護具の着脱、コロナ禍の避難所対応など新型コロナウイルス感染症発生状況下で自然災害が発生した場合の救護活動に備えた訓練を実施した。

- (1) 令和2年7月11日 支部・病院・血液センター職員59名
- (2) 令和3年7月10日 支部・病院・血液センター職員49名
- (3) 令和4年7月9日 支部・病院・血液センター職員46名

6 COVID19-JMAT 活動への参加

北海道からの要請により、旭川市内の医療機関や施設内で発生した新型コロナウイルス感染症対応のため、令和2年12月10日から14日まで、支部職員1名を旭川市保健所に派遣し、JMAT（日本医師会災害医療チーム）隊員として院内や施設内の対策本部の業務支援にあたった。

7 赤十字奉仕団等の活動

- (1) 赤十字奉仕団等が、マスクが不足している時期に、布マスクの作製などに取り組み、学校や医療施設、福祉施設へ寄贈した。



実施団体名	実施月	内容
飯野町赤十字奉仕団	令和2年6月	布マスク120枚を地元小学校に寄贈
飯坂赤十字奉仕団	// 4月	布マスク200枚を地元小・中学校に寄贈
湯野赤十字奉仕団	// 4月	布マスク186枚を地元小・中学校に寄贈
福島希望赤十字奉仕団	// 4月	布マスク200枚を全国の友人知人に発送
北信赤十字奉仕団	// 4月	布マスク190枚を地元学習センターに寄贈
荒井赤十字奉仕団	// 3月	布マスク200枚を地元小学校に寄贈
	// 4月	布マスク100枚を地元小学校に寄贈
佐倉赤十字奉仕団	// 4月	布マスク230枚を地元小・中学校に寄贈
保原町赤十字奉仕団	// 5月	布マスク120枚を地元社会福祉協議会に寄贈
霊山町赤十字奉仕団	// 7月	布マスク700枚を社協を通して町内の一人暮らし高齢者に寄贈
国見町赤十字奉仕団	// 6月	布マスク100枚を身近な方に配布
二本松市赤十字奉仕団	// 5月	布マスク50枚を地元社会福祉協議会に寄贈
須賀川市赤十字奉仕団	// 4月	布マスク851枚を医療機関、福祉施設等12施設に寄贈
鏡石町赤十字奉仕団	// 6月	布マスク552枚を町内保育施設4か所へ寄贈
大越町赤十字奉仕団	// 5月	布マスク350枚を田村市社会福祉協議会に寄贈
天栄村赤十字奉仕団	// 4月	布マスク作成に村登録ボランティアとして多数参加
会津若松市鶴城分団	// 5月	布マスク110枚を地元高齢者施設に寄贈
会津若松市大戸分団	// 4月	布マスク562枚を地元小中学校、保育所・公民館・病院等に寄贈
喜多方市赤十字奉仕団		山口県や三重県の奉仕団からいただいたマスク130枚を地元福祉施設に寄贈
会津坂下町赤十字奉仕団	// 5月	布マスク20枚を地元社会福祉協議会に寄贈
柳津町赤十字奉仕団	// 4月	布マスク220枚を町内の小・中学校3校に寄贈
会津美里町新鶴奉仕団	// 7月	タオル100枚を地元高齢者施設に寄贈
北会津赤十字奉仕団	// 6月	布マスク150枚を地元社会福祉協議会に寄贈
下郷町赤十字奉仕団	// 4月	布マスク70枚を地元社会福祉協議会に寄贈
原町赤十字奉仕団	// 7月	布マスク125枚を地元社会福祉協議会に寄贈
日赤福島ボランティア会 (元日赤職員)	// 5月	布マスク550枚、拭き掃除布400枚、掃除布500枚を福島赤十字病院に寄贈
	// 10月	当支部に布マスク20枚寄贈
	// 11月	感染防止用ガウンを制作し、日赤病院へ100枚寄贈
	令和3年2月	福島血液センター職員に布マスク100枚寄贈
(学法) 福島県磐城第一高等学校 (JRC加盟校) 被服部	// 10月	感染防止用ガウン日赤病院へ50枚寄贈
	令和2年11月	日赤福島ボランティア会と協力して感染防止用ガウンを制作し、福島赤十字病院へ100枚寄贈



(2) 三春町赤十字奉仕団ワクチン接種支援

三春町社会福祉協議会の依頼により、町内体育館や病院での集団接種会場において、体温測定や手指消毒の案内、受付業務の補助や接種後誘導補助のボランティアを行っている。令和3年6月から現在にわたって継続して活動しており、延べ活動人数159人（令和4年3月現在）。



8 青少年赤十字での取り組み

日赤本社が作成した青少年赤十字向けの教材「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」を、県教育委員会を通して県内全ての小中高にデータ配信するなどの取り組みを行った。

9 インスタグラムによる情報発信

当支部のInstagramに日赤本社作成の下記ガイドを掲載し、感染拡大を防ぐための一助となるよう情報発信を行った。

○新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～（令和2年4月2日～）

○ウイルスの次にやってくるもの（動画）（令和2年5月19日～）

○感染症流行期にこころの健康を保つために（令和2年5月25日～）

～隔離や自宅待機により行動が制限されている方々へ～

～隔離や自宅待機により行動が制限されている方の周りにいるあなたへ～

～高齢者や基礎疾患がある方とご家族へ～

○油断大敵！新型コロナウイルスは、まだ「ソコ」にいます！（令和2年6月19日～）

赤十字の活動資金にご協力をお願いします。

活動資金への協力方法

●地域の自治会や町内会の中でご協力いただく方法。



●最寄りの市町村／社会福祉協議会の赤十字の窓口へ申し込みたい方法。



●日赤の振込用紙でご協力いただく方法。(振込手数料無料)



◎日本赤十字社の創立記念日である5月1日から1ヵ月間は、赤十字運動月間として特に広く社員加入のご案内をしています。

●日本赤十字社の表彰

表彰種別	表彰の基準	贈与される表彰品
特別社員	一時又は数次（10年以内）に2万円以上のご協力をいただいた方	特別社員称号贈与通知書、金色バッジ（個人のみ）、陶器製門標（個人のみ）
支部長感謝状	一時又は累計で10万円以上20万円未満のご協力をいただいた方	感謝状
銀色有功章	一時又は累計で20万円以上50万円未満のご協力をいただいた方	銀色有功章（楯）、陶器製門標（大）（個人のみ）、略章
金色有功章	一時又は累計で50万円以上のご協力をいただいた方	個人：金色有功章、章記、略章 法人：金色有功章（楯）、略章

※年間100万円以上のご協力については、上記以外の表彰もございますので、詳しくは当支部までお問合せ下さい。

特別社員	<p>称号贈与通知書</p> <p>称号贈与通知書</p> <p>金色バッジ</p> <p>陶器製門標</p> <p>日赤太郎</p>	支部長感謝状	<p>感謝状</p>
銀色有功章	<p>楯</p> <p>略章</p> <p>陶器製門標</p> <p>日赤太郎</p>	金色有功章	<p>金色有功章（男性用）</p> <p>金色有功章（女性用）</p> <p>章記</p> <p>略章</p>

●日本赤十字社への社費や寄付金に適用される税制上の優遇措置（要旨）

納入者区分	区分	関係根拠法令	適用期間	措置の内容
個人	所得税の控除	所得税法第78条第2項第3号	通年	寄付金の全額（ただし、上限は寄付者の年間所得総額の40%まで）から2千円を差し引いた額が、寄付者の年間所得総額から控除されます。
	個人住民税の控除	地方税法第37条の2及び同法施行令第7条の17	通年 (募集金額上限に達した時点で終了)	総理大臣が毎年指定告示する日赤事業に対してなされる寄付金の全額(ただし上限は寄付者の年間所得総額の30%まで)から2千円差し引いた額の10%が寄付者の住民税額から控除されます。(居住地の都道府県支部に寄付の場合のみ適用)
	相続税の非課税	租税特別措置法第70条	通年	寄付した相続財産の価格は、相続人の納めるべき相続税の課税価格に算入されません。
法人	法人税の控除(指定寄付金)	法人税法第37条第3項第2号に基づく財務省告示	4月～9月 (募集金額上限に達した時点で終了)	財務大臣が毎年指定告示する日赤事業に対してなされる寄付金の全額が、法人の寄付金損金算入限度額にかかわらず損金の額に算入されます。
	法人税の控除(特定公益増進法人に対する寄付金)	法人税法第37条第4項	通年	通常の寄付金の損金算入限度額とあわせて、別枠で算出した特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額が損金の額に算入されます。



日本赤十字社キャラクター

ハートちゃん

日本赤十字社 福島県支部

〒960-1197 福島市永井川字北原田17

☐ 総務課 ☎ (024) 545-7997 ☎ (024) 545-7923
☐ 組織振興課 ☎ (024) 545-7998 ☎ (024) 545-7924
☐ 事業推進課 ☎ (024) 545-7996 ☎ (024) 545-7923

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima>